



Innovation for the Earth

# CSR REPORT 2019



リマテックグループの環境への取り組みが業界トップランナーとして環境大臣に認定されました



資源循環で、低炭素社会へ。気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同しています



ミックス  
責任ある木質資源を  
使用した紙  
FSC® C007878



水無し印刷を  
採用しています

# 見たことのない 世界への挑戦



パリ協定が目指す「2°C目標(2°Cよりも十分低く保ち1.5°Cに抑える努力)」の達成に向けて  
世界は激しく変化しており、今後はまさに産業革命以来の大産業革命とも言える大転換時代を迎えます。  
社会インフラはエネルギーを中心に大きく変化し、私たちのライフスタイルは想像できないほど  
この先変化していくものと考えられます。  
リマテックグループでは来るべき大転換時代のリスクとチャンス事前に評価し、それらへの準備を一步一步進めながら  
「見た事のない世界」を作ることに挑戦していく所存です。

## Contents 2019

### 04 | 特集

特集1 リマテックグループのSDGsに関する活動 <b>リマテックグループのSDGs</b>	04
<b>事業内容を通じて貢献できるSDGs</b>	06
特集2 リマテックグループのサプライチェーン・マネジメント <b>リマテックグループにおける サプライチェーン排出量</b>	08
特集3 リマテックグループの国内事業 <b>リマテックグループ事業紹介</b>	10
特集4 これまでのイノベーションの変遷 <b>リマテックグループの歴史</b>	12
特集5 リマテックグループとCSRの関係 <b>CSR×リマテックグループ</b>	14

### 16 | 理念・報告

革新的なプロダクトやアイデアを創出する イノベーションを推進していきます <b>トップメッセージ</b>	16
理念とビジョン	18
CSR活動報告	20
安全衛生・環境活動報告	21

### 22 | グループ企業紹介

リマテック株式会社	22
リマテック九州株式会社	24
リマテック東北株式会社	26
リマテックR&D株式会社	28
RTT株式会社	30

### 32 | DATA・その他

RF事業における環境パフォーマンスデータ	32
データ実績	33
環境・安全衛生活動報告データ	34
3カ年目標	35
第三者意見/第三者意見を受けて	36
企業情報	37



#### リマテックグループのロゴ

一つひとつのサークルは小さな循環を意味し、そのサークルが連鎖することによって資源循環型社会が構築されていくことを表しています。当グループの提供する資源循環サービスの一つひとつが資源循環型社会構築に貢献していきたいという想いが込められています。確かな技術とノウハウ、これまで培ってきた経験と実績をベースに、よりいっそう顧客価値創造に取り組み、ビジネスパートナーとして皆様の企業価値向上に貢献し、ステークホルダーの皆さまと持続可能な社会づくりに邁進する所存です。

# リマテックグループのSDGs

既存事業活動のSDGsへの当てはめから脱却し、  
SDGsを基盤とした経営を目指す

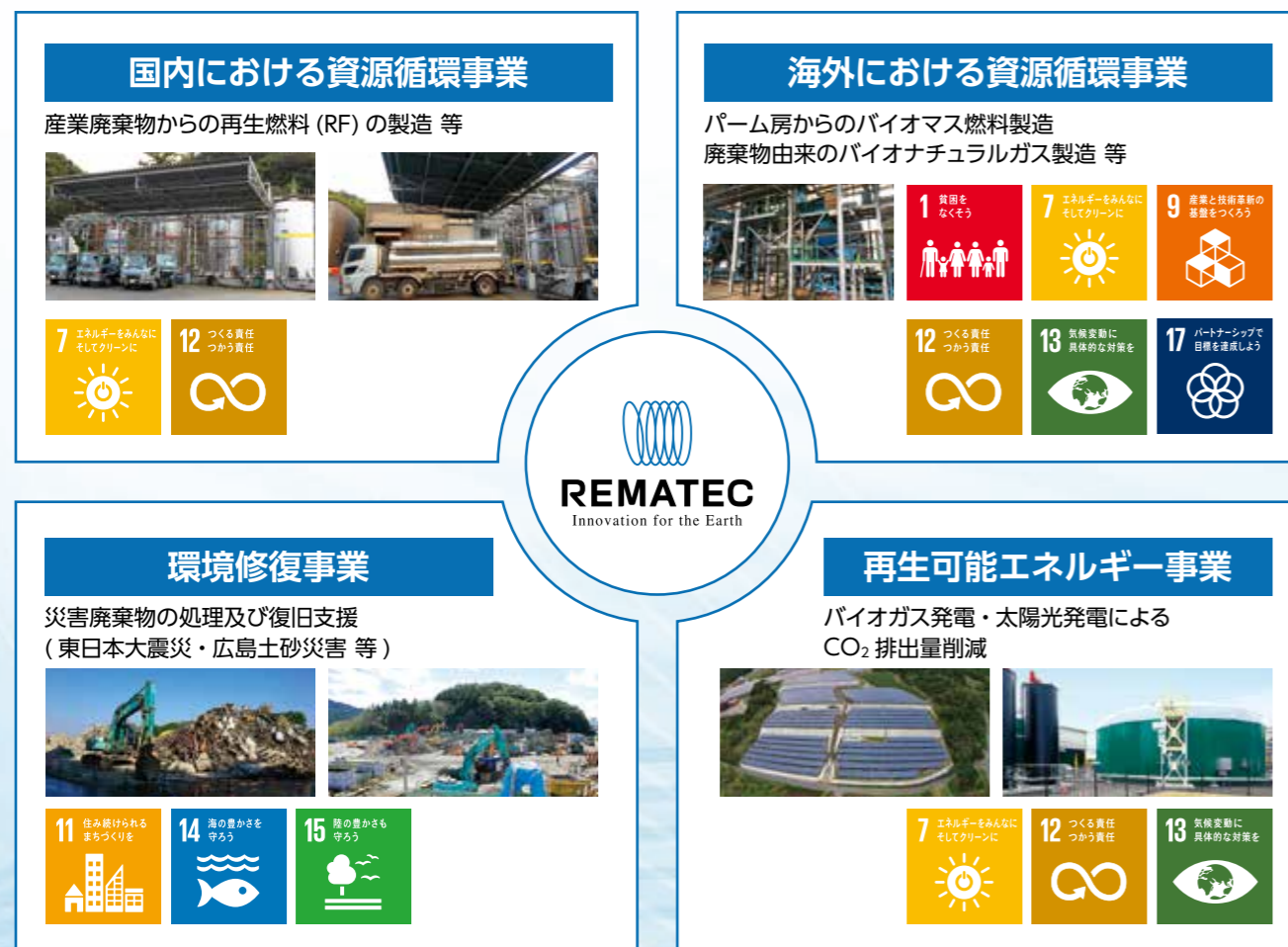


1974年に発足した当社の母体は、大阪湾の網元の系譜を引く水産会社でした。その当時の大阪湾は深刻な海洋汚染が著しく、特に1972・73年のPCBによる汚染は母体の水産会社にとって致命的でした。漁業の持続可能性を担保するために、「海洋汚染の原因」である廃油、廃液を原料として燃料を製造する「資源循環事業」を起業。現在では「環境修復事業」や「再生可能エネルギー事業」も行うなど、環境分野での社会的課題の解決と持続可能な社会の構築に貢献する事業に取り組んでいます。

SDGsの17の目標のうち、リマテックグループの事業活動は、SDGsの土台となる環境「海や森の豊かさや自然」を含めた9つの目標と深い関わりがあります。このうち5つを重点項目とし、各事業が連携した経営を実践し、SDGsを企業戦略として経営統合することで目標達成を目指します。そのためにはパートナーシップが不可欠です。グループ内だけでなくグループ外の人材、技術、ノウハウ、知識といったリソースも巻き込んで、革新的なプロダクトやアイデアを創出するイノベーションを推進してまいります。

## リマテックグループ事業とSDGsとの関わり合い

「SDGsの企業行動指針 (SDGs Compass)」を参考に、当社の事業活動と関わりの深いSDGsの目標をマッピング。



## SDGs重点課題と報告

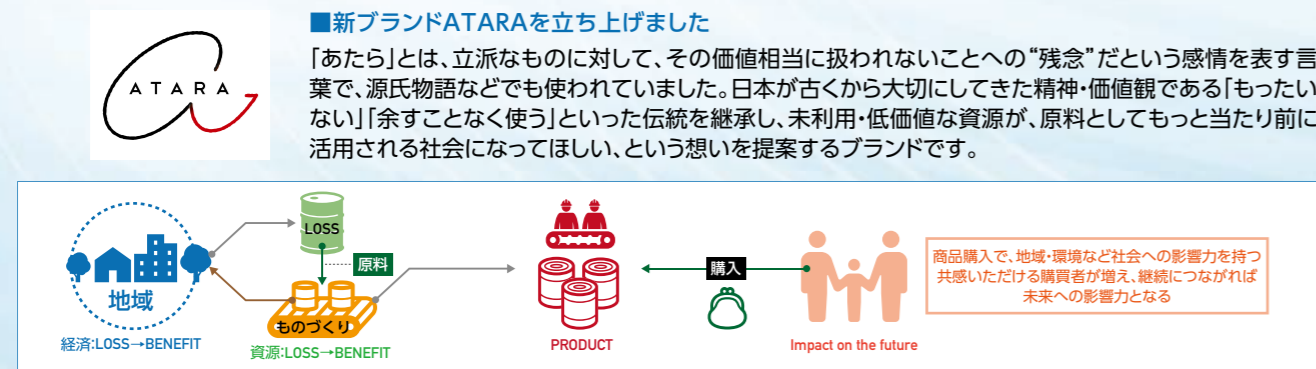
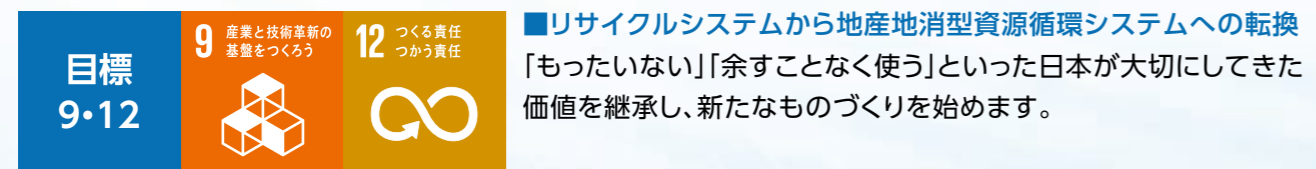


# 事業内容を通じて貢献できるSDGs

## 再生可能エネルギー割合を増やす



## 新たなバリューチェーンの構築

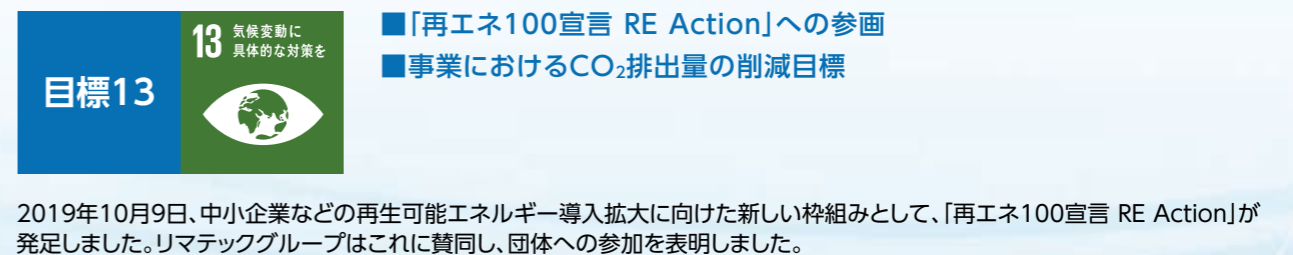


**■ATARAのビジョン**  
私たちが思い描くのは、もったいない(“あたら”な)状態の原料も、一つの資源として当たり前になっている社会。また同時に、ものづくりの企画段階から原料の循環方法までDesignされていることで、“あたら”な資源こそが希少性を持つ社会です。“あたら”な資源は地域においてLossとなっているか、0もしくは低価値な状態です。それを原料として調達することで、Loss~ZeroをBenefitに変えていく取り組みです。それにより、地域における新たな価値にもつなげたいと考えています。初めからすべての“あたら”な資源を取り扱えるわけではなく、わずかながらの影響に過ぎませんが、その積み重ねが未来への影響力につながることを信じて。

## 人々が安心して暮らせるまちづくり



## 温室効果ガスの削減



- 「再エネ100宣言 RE Action」の参加要件
- ①遅くとも2050年迄に使用電力を100%再エネに転換する目標を設定し、対外的に公表すること
  - ②再エネ推進に関する政策エンゲージメントの実施
  - ③消費電力量、再エネ率等の進捗を毎年報告すること



「再エネ100宣言 RE Action」とは  
グリーン購入ネットワーク(GPN)、イクレイ日本(ICLEI)、地球環境戦略研究機関(IGES)、日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP)が協議会として運営をサポートするイニシアティブ。  
企業、自治体、教育機関、医療機関等の団体が使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示し、再エネ100%利用を促進する新たな枠組み。再生可能エネルギーの利用拡大に取り組む需要家の裾野を広げ、「リーズナブルな再生可能エネルギー」を調達できる社会環境の構築を目指す。

再エネ100宣言 URL:<https://saiene.jp/>

# リマテックグループにおける サプライチェーン排出量

対象期間  
2018年4月1日～  
2019年3月31日

リマテックグループは、事業活動において、電気・燃料などのエネルギー資源を使用し、結果としてCO<sub>2</sub>や廃棄物などを排出しています。下記の図は、調達からリサイクルまで、当社が与えている環境負荷の全体像を示しています。

サプライチェーン全体における温室効果ガスについては、国際的な算定基準であるGHGプロトコルに従ってスコープ1、2、3に分けて把握しています。



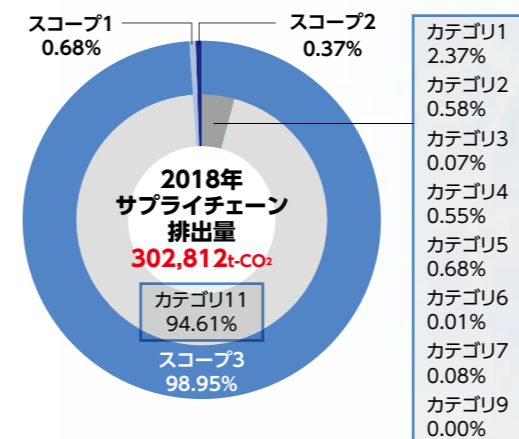
スコープ	活動量	
スコープ1	オフィスや工場、輸送などの燃料使用量	
スコープ2	オフィスや工場、輸送などの電気、熱の使用量	
スコープ3 ※3	カテゴリ1	グループ会社外※1から調達した製品の生産におけるCO <sub>2</sub> 排出量
	カテゴリ2	購入または取得した資本財の建設・製造及び輸送から発生する排出量(当年度増加額)
	カテゴリ3	購入した燃料及びエネルギーの上流側(資源採取、精算及び輸送)の排出
	カテゴリ4	外部委託の輸送による工場への廃棄物・原料油を運搬する際の燃料使用量
	カテゴリ5	事業から出る廃棄物の廃棄処理に伴うCO <sub>2</sub> 排出量
	カテゴリ6	出張に際して用いる交通機関の稼働に伴うCO <sub>2</sub> 排出量
	カテゴリ7	通勤に際して用いる交通機関の稼働に伴うCO <sub>2</sub> 排出量
カテゴリ9	当社が販売した製品の輸送に伴うCO <sub>2</sub> 排出量※2	
カテゴリ11	販売したRFの燃焼に伴うCO <sub>2</sub> 排出量	

※スコープ2の値についてはマーケット基準で算出

- ※1 グループ会社から購入した製品の生産のCO<sub>2</sub>排出量は、グループ会社のスコープ1,2及びカテゴリ1等と重複するため算定対象外。
- ※2 製品(RF)運搬は運搬費(当社グループ運搬)にかかるCO<sub>2</sub>排出量をスコープ1で計上済のため、カテゴリ9の算定対象外。
- ※3 カテゴリ8、10、12,13,14,15については該当なし

## バリューチェーン全体におけるCO<sub>2</sub>排出量の算定

### 2018年度 スコープにおけるCO<sub>2</sub>排出量の割合



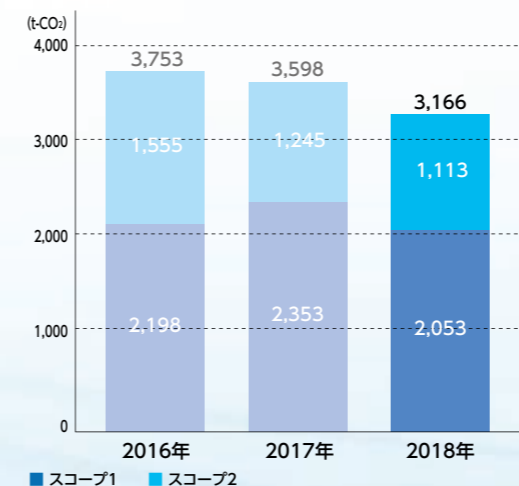
「脱炭素社会の実現」のためには、リマテックグループ内での活動に加えて、バリューチェーン全体を通じてのCO<sub>2</sub>排出量の削減活動が必要不可欠です。リマテックグループでは昨年度、SBTの目標水準に整合した中長期目標を設定しました。2017年度の排出量を基準年とし、スコープ1,2における2030年度温室効果ガス排出量を20%削減、2050年度には49%削減を目指しております。

国際基準であるGHGプロトコルを参照してCO<sub>2</sub>排出量の算定を行った結果、2018年度は302,812 (t-CO<sub>2</sub>)の排出量となりました。そのうち、スコープ1,2に対しては、前年度から約12%減少となる3,166(t-CO<sub>2</sub>)の排出量となりました。

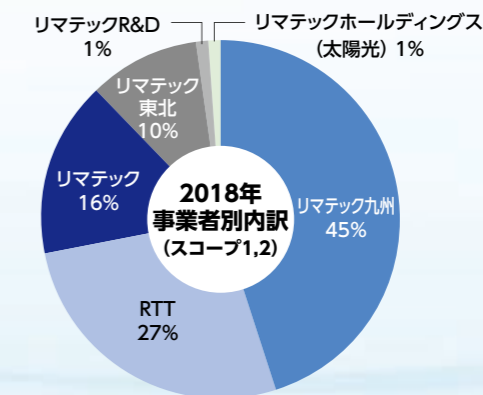
スコープ3の全体に占める割合は約99%であり、前年度と同じ傾向です。中でも「販売したRFの燃焼に伴うCO<sub>2</sub>排出量」がもっとも多く、約95%を占めています。

今後は、各カテゴリでの算出精度の向上、スコープ3の各カテゴリの中から、排出量削減施策の立案及び実行、上流及び下流のバリューチェーンへの排出量削減の働きかけをテーマとして推進していきます。

### 事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量 (スコープ1,2)の推移



### 2018年度 事業者別内訳(スコープ1,2)



## 第三者検証

リマテックグループは、グループ全体の環境情報・データの一元集約と第三者検証による透明性・信頼性の高い情報開示は必須であると考えております。

2019年8月には、リマテックグループの国内事業所から排出された温室効果ガス排出量(スコープ1、2、3)および温室効果ガスの算定方法や算定結果の適切性について、ISO14064-1に準拠した第三者検証を受け、その検証機関であるソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社による保証書を取得しました。

- 対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日
- 対象範囲：リマテックグループ(6拠点)  
内選定した3ヶ所の拠点(リマテック株、リマテックR&D株、RTT株)への現地訪問を実施
- 結果：リマテックグループの方針および基準を規準として、ISO14064-3に準拠し、重要な点において収集、報告されていないと認められる事項はないことが報告されました。



# リマテックグループ 事業紹介

リマテックグループは、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野における社会的課題の解決を主たる事業領域とし、グローバルに事業を展開しています。

## RF事業



様々な産業から排出される廃油、廃液、汚泥、ばいじんなどの廃棄物を、独自特許技術※1によってセメント工場の石炭補助燃料となるRF (Reclaiming Fuel / 廃棄物を利用した再生燃料)へ再資源化。

燃焼ゼロ・排水ゼロ・埋立ゼロの地球に負荷をかけないリサイクル・システムを行っています。

性状が異なる廃棄物を混練し、安定した品質の製品 (RF) を製造することは非常に難しいですが、長年培った経験・技術によって、安定生産を実現しています。

※1:特許第3039644号 「可逆的チキソトロピー性を有するセメント焼成用補助燃料組成物」

## 環境修復事業



不法投棄された産業廃棄物による土壌汚染や、海難事故による原油流出、大規模な地震・洪水等で発生した災害廃棄物などを早期撤去し、一日でも早い生活環境の回復に向け、復旧・復興支援事業に取り組んでいます。グループの総合力により、廃棄物運搬から分析、高精度選別、再資源化までの一貫した処理スキームの構築や提案・施工を行っています。

## ネットワーク・物流事業



収集運搬から処分まで産業廃棄物のトータルコーディネートを実現し、日本各地の収集運搬ネットワークを幅広く網羅することで、ネットワーク物流事業を展開しています。様々な用途の車両を取り揃え、収集運搬から再資源化、有価物化等を担う「ワンストップサービス」を提供。お客様の各種ニーズに幅広く、柔軟に対応しております。

また、運送上の事故・トラブル「0」及び環境負荷低減を念頭に、同乗指導やデジタルタコグラフによる徹底管理を日々行っています。

## 国内事業拠点



## メンテナンス事業

各種設備メンテナンス等の実績で培ったノウハウを活かし、お客様の希望に沿ったメンテナンス方法と安全対策を提案・施工しています。また、大型タンク内清掃や各種設備清掃時に発生する洗浄水等の廃棄物について、その時々 conditions に応じたより良いリサイクル方法や処理方法をご提案する一元管理サービスも行っております。

## 太陽光発電事業



脱炭素社会の実現及び、再生可能エネルギー100%を目指す、国内4か所(熊本県・鹿児島県2ヶ所・岡山県)に大規模な太陽光発電パネルを設置。

istring監視システムのデータ活用による無駄のない効率的な発電と徹底的なメンテナンス・コスト管理のもと、電力供給を行っています。

自然環境にやさしい「再生可能エネルギー」の普及促進に努め、企業の社会的責任としての環境負荷低減などを通じて社会に貢献いたします。

# リマテックグループの歴史

1970年代高度経済成長期に伴う海洋汚染を契機に、様々な環境問題に正面から向き合い、改善に取り組んできたリマテックグループ。試行錯誤しながらも「変化」へ対応してきた私たちの歩みを、一部ご紹介します。

※PJ：PROJECTの略称  
※RF (Reclaiming Fuel)：セメント焼成用補助燃料製造

<p><b>1974</b></p> <p><b>近畿環境興産株式会社設立</b></p> <p>海洋汚染の主要原因である廃油・廃液を処理するべく「近畿環境興産株式会社(のちのリマテック株式会社)」を設立</p>	<p><b>1992</b></p> <p><b>関西空港-PJ</b></p> <p>関西国際空港建設に伴い空港島内で発生する建設廃棄物の処理マネジメント</p>	<p><b>1993</b></p> <p><b>台湾RF-PJ</b></p> <p>中華民国・高雄へ廃棄物処理再生技術(RF燃料製造)を技術移転</p>	<p><b>1995</b></p> <p><b>震災廃棄物処理-PJ</b></p> <p>芦屋市、西宮市、宝塚市等の震災廃棄物マネジメント</p>	<p><b>1996</b></p> <p><b>韓国-PJ</b></p> <p>韓国蔚山広域市において、大手石油精製工場のRFプラント建設、技術移転、および運転支援を実施</p>	<p><b>1997</b></p> <p><b>ナホトカ号-PJ</b></p> <p>ロシア船籍タンカー(ナホトカ号)が破断し、日本海沖に漂流・漂着した事故において、重油の回収・処理・処分を実施。日本海を覆った排出重油等の総回収量は、海水・ゴミ・油泥砂などを含め、約5万9千トンにも及び、船舶輸送を含め、全国7件10箇所にて対応。原状回復と再資源化等処理・処分を実現</p>	<p><b>2000</b></p> <p><b>廃棄乳再資源化-PJ</b></p> <p>食中毒事件に伴う廃棄乳処理のマネジメント</p>	<p><b>2001</b></p> <p><b>橋本-PJ</b></p> <p>橋本市ダイオキシン汚染現場の不法投棄廃棄物処理マネジメント</p>
<p><b>2002</b></p> <p><b>岩手青森県境-PJ</b></p> <p>岩手・青森県境不法投棄事業。原状回復事業における施工管理業務/選別プラント・水処理プラント設計建設。算出されたマトリックス・シミュレーションにて投棄・埋没された廃棄物の種類を予測し、選別フロー・選別処理基本システムを設計。作業におけるリスク及び、周辺へのリスクの最小化を図りながらの原状回復を約11年かけて終了</p> 	<p><b>2006</b></p> <p><b>北九州 PCB-PJ</b></p> <p>PCB汚染土壌処理施設運転管理業務</p> 	<p><b>2007</b></p> <p><b>洲本-PJ</b></p> <p>亜臨界水処理によるメタン発酵エネルギー活用プロジェクト</p>	<p><b>2007</b></p> <p><b>BOFs大船渡-PJ</b></p> <p>大船渡工場BOFs (Biomass and Oilysludge Fuel) 製造設備の設計、建設、運転支援</p>	<p><b>2008</b></p> <p><b>3S(トライエス)-PJ</b></p> <p>亜臨界水処理によるメタン発酵エネルギー活用プロジェクト</p>	<p><b>2009</b></p> <p><b>NaK-PJ</b></p> <p>原子炉の冷却剤利用として研究されていたNaK®の廃棄が課題となっており、処理方法を提案。安全対策・防災訓練をもとに、模擬作業演習を実施。低酸素作業室を自作し、オンサイト設置、NaKの安全な回収を実現</p>  <p>※NaK=金属ナトリウムカリウム合金。空気や水分にふれると爆発的に反応・炎上する取扱い困難物質</p>		
<p><b>2010</b></p> <p><b>リマテック株式会社に社名変更</b></p> <p><b>岐阜不法投棄原状回復-PJ</b></p> <p>不法投棄産業廃棄物を処理するにあたり、不法投棄廃棄物が発熱していることが判明。燃焼箇所を消火する注水消火の補助工法を提案し採用され原状回復を実施</p> <p><b>亜臨界プラント-PJ</b></p> <p>亜臨界パイロットプラント 建設・運転支援</p>	<p><b>2011</b></p> <p><b>東日本大震災復興-PJ (岩手県)</b></p> <p>海水をかぶったがれき(災害廃棄物)を処理するための除塩プラント、仮置場災害廃棄物を選別する二次選別プラント、津波堆積物を処理する分級プラントの設計・施工・処理(陸前高田市約83万t)を実施。また、除塩事業による災害廃棄物処理(約93.5万t)、二次選別作業における災害廃棄物処理(大船渡市約84万t、陸前高田市約119万t)を実施</p>	<p><b>2012</b></p> <p><b>滋賀県大津市-PJ</b></p> <p>ドラム缶約450本に及び不法投棄の支障除去業務及び再生燃料化・焼却などの処理を実施</p> <p><b>タイ王国</b></p> <p>廃棄物の実態調査・廃棄物組成分析・湿式分級装置を用いたRDF (Refuse Derived Fuel: 廃棄物固形燃料) 実証試験開始</p>	<p><b>2013</b></p> <p><b>「REMATEC &amp; KSN Thailand」海外現地法人設立</b></p> <p>タイ王国における廃棄物リサイクル事業の企画推進をはじめ、アジアでの未利用資源の活用事業開発、及びそれら事業への投資を主な業務としたREMATEC &amp; KSN Thailand (RKT) 海外現地法人を設立</p>	<p><b>2014</b></p> <p><b>持株会社制に移行「リマテックグループ」へ</b></p> <p><b>二次電池材料開発-PJ</b></p> <p>廃棄物由来の低コストな二次電池用原料の製造技術開発事業</p>			
<p><b>2014</b></p> <p><b>太陽光発電事業開始</b></p> <p>温室効果ガスの排出量削減やエネルギーの有効活用を目的とした再生可能エネルギー活用(太陽光発電事業)を開始</p> <p><b>広島災害復興-PJ</b></p> <p>広島県広島市で発生した、豪雨土砂流による災害廃棄物の適正処理を実施</p>	<p><b>2015</b></p> <p><b>Green Conservation Solutions (GCS)を設立</b></p> <p>RKTとサイアムセメントグループとの合併会社GCSが、現地の堆肥化工場から発生する埋立残渣のリサイクル施設を竣工</p> <p><b>バイオガス発電プラント「MFパワー1号」運転開始</b></p> <p>大阪府では初めてとなる固定価格買取制度(FIT)適用のバイオガス発電施設として、発電事業をスタート</p>	<p><b>2016</b></p> <p><b>熊本地震災害復興-PJ</b></p> <p>熊本県で発生した地震による災害廃棄物98万tの適正処理を実施</p>	<p><b>2017</b></p> <p><b>大分県津久見市 豪雨災害-PJ</b></p> <p>大分県津久見市を襲った台風18号の影響で河川が氾濫発生した大量の汚泥・がれき等(14,300t)の災害廃棄物の適正処理を実施</p>	<p><b>2018</b></p> <p><b>広島県呉市 豪雨災害-PJ</b></p> <p>2018年7月豪雨による災害廃棄物が13万トン発生。現在、早期復旧に向けて全力で取り組む</p>	<p><b>2018</b></p> <p><b>大阪府岸和田市 災害復興-PJ</b></p> <p>台風21号の影響による災害廃棄物2,500tの適正処理を実施</p>		

# CSR×リマテックグループ



## RF出荷量

◎対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社

**98,041 t/年**

■2018年度目標値：98,000t/年

台風21号の被災もありましたが、製造ラインを止めることなく、社員一丸となって目標を達成。RFの品質改良にも着手し、お客様に信頼して使用いただける高品質な製品を安定供給できるよう、日々取り組んでいます。



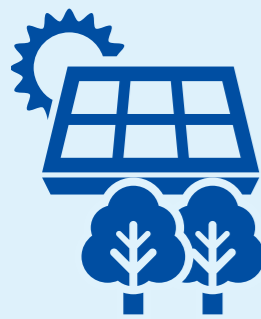
## RF1tあたりの電力消費量

◎対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社

**24.2 kWh/t**

■2018年度目標値：25.4 kWh/t

RF生産時の電力使用量の削減に向け、製品タンク攪拌機の間欠運転やデマンド監視の実施、さらに脱臭設備稼働時の電力量を調査して最適に調整するなど、設備改善を継続的に取組んだ結果、目標を達成することができました。



## 太陽光発電量&CO<sub>2</sub>削減量(太陽光発電)

◎対象/熊本発電所、鹿児島発電所、岡山発電所、鹿児島第二発電所

### 太陽光発電量

**8,945 千kWh/年**

■2018年度目標値：7,912千kWh/年

### CO<sub>2</sub>削減量

**4,772 t-co<sub>2</sub>/年**

定期的な監視(ストリング監視システム)やメンテナンスの結果、年間を通して、順調に稼働しておりました。しかし、2018年9月の台風24号による強風により、パワコン1号機が故障。パネル破損等の事故が発生いたしましたが、早期復旧に注力し目標値に達成することができました。引き続き、定期的な監視・メンテナンスから、より多くの電力量を供給し、低炭素社会の形成に貢献します。

※日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット編 2018年度参照  
※太陽光発電のCO<sub>2</sub>削減量については、太陽光発電協会「表示ガイドライン(平成30年度)」を参考に算出



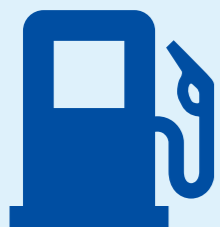
## リサイクル率

◎対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社

**96.2 %**

■2018年度目標値：97%

2017年度のトラブル対応の影響を受け、エコ・ファーストで掲げるグループ目標97%を達成する事ができませんでした。次年度はグループ一丸となってエコ・ファーストの目標をクリアし、100%に近いリサイクル率の達成を目指します。



## 収集運搬車両の燃費

◎対象/リマテック九州株式会社、RTT株式会社(大阪支社、九州支社)

**3.18 km/L**

■2018年度目標値：3.6km/L

収集運搬車両の燃費向上に向け、デジタルタコグラフによる管理・指導や、管理者による同乗指導の他に、外部の交通安全研修(3日間)において省燃費走行について学ぶなど、目標達成に向けた活動を進めてきましたが、達成することができませんでした。原因としては、まだまだ省燃費に対する意識が全体に浸透していなかったためであると考えています。次年度は、燃費向上に向け、教育や日々の指導等を通して、社員全員の意識共有を図り、燃費改善に向け取り組んでいきます。



## 有給休暇取得率

◎対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社、リマテック東北株式会社、リマテックR&D株式会社、RTT株式会社

**50.6 %**

有効期限が消滅した年次有給休暇を、私傷病や介護に利用できる繰越年次有給休暇制度を設けるなど、福利厚生の上昇に努め、ワークライフバランスの実現に向けて様々な支援制度を提供しています。

※2018年度日本における年次有給休暇の取得率51.1%、厚生労働省平成30年就業条件



## エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取組み～

リマテックグループは2008年11月に環境保全への取組みを約束し、業界初、環境大臣より「エコ・ファースト企業」に認定されました。さらに、2019年6月に2030年度に向けた中期目標及び2050年度に向けた長期目標に基づいて「エコ・ファーストの約束」更新を行い、「エコ・ファースト企業」に再認定されました。新しい約束で従来から大きく変更した点は、事業を通じて持続可能な脱炭素社会への貢献を目指し具体化したことです。再生可能エネルギー事業を、今後さらに強化・拡大しながら、環境先進企業としての取組みを進めてまいります。



### 約束1 循環型社会の形成に向けた取組みを積極的に推進します

- 排出先から受入れた産業廃棄物のリサイクル率97%以上を目指します。
- 再生燃料化できる産業廃棄物を増やすための研究を進め、循環型社会の促進に貢献します。
- 循環型社会の形成に向けた取組みを積極的に推進します。

### 約束2 地球温暖化の防止に向けた取組みを積極的に推進します

- 通常は焼却・埋立といった処理が行われる廃棄物も含めて、様々な工場等から排出される多種多様な産業廃棄物を原料とし、独自の技術により、セメント工場等で利用する再生燃料(RF燃料)の出荷を、2024年まで現状より5%アップします。これにより、工場で使われる石炭等の化石燃料の使用量を抑えることを通じ、温室効果ガスの削減が図られ、脱炭素社会の形成に貢献します。  
※1tのRF から生み出される熱エネルギーは、石炭(一般炭)0.7tに相当し、約1.62t-co<sub>2</sub> 温室効果ガスを削減できます
- 国内事業所でのCO<sub>2</sub>排出量(スコープ1,2)を2030年までに2017年度比で20%削減、2050年までに49%削減することを目指します。また、サプライチェーンとの協働により、バリューチェーン全体での環境負荷低減を図ります。

### 約束3 持続可能な脱炭素社会への貢献を目指します

- リマテックグループで取組んでいる再生可能エネルギー事業を今後さらに強化・拡大することで、温室効果ガスの削減とエネルギー自給率の向上に寄与します。
- 現在保有している太陽光発電設備において、無駄のない効率的な発電と徹底的なメンテナンス・コスト管理による利益計画の達成と、エネルギー自給率の向上と脱炭素社会への貢献を目指します。  
(所有発電所施設:鹿児島2拠点、岡山1拠点、熊本1拠点 合計7.5MWの発電容量を保有)

### 約束4 社員への環境教育・啓発活動を積極的に実施します

- 環境問題に関する教育や啓発活動を通じて、従業員一人ひとりの意識向上を図るため、社内の取組みに関する報告・説明や教育・研修などを通じた環境関連の情報・知識の習得、および従業員の環境社会貢献活動への参加支援を、グループ全体や事業会社ごとに実施します。

### 2018年度エコ・ファーストの実績

約束内容	項目	目標	2018年度実績
1 循環型社会形成の推進	産業廃棄物のリサイクル率	97%を維持	<b>96.2%</b>
	再生燃料化できる産業廃棄物を増やすための研究	—	廃棄物再資源化に関する研究開発活動の実施
2 地球温暖化防止の推進	再生燃料(RF燃料)出荷量	2019年度まで現状より5%アップ	<b>98,041t</b>
3 廃棄物の有効活用	バイオマスを利用したエネルギー回収技術の開発に向けた取組み	—	食品系廃棄物等を活用したバイオガス発電実施
4 環境教育の実施	独自の環境教育の実施	—	当社独自の社内環境教育を実施
	工場見学を定期的に企画・実施	—	各社工場・プラントにて国内外から見学者対応を実施

※「エコ・ファースト制度」企業が環境大臣に対し、地球温暖化対策、廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境保全に関する取組みを約束し、その企業が、環境の分野において「先進的、独自のかつ業界をリードする事業活動」を行っている企業(業界における環境先進企業)であることを、環境大臣が認定する制度。認定を受けた企業は、エコ・ファーストマークを使用することができる。エコ・ファースト制度について(環境省ホームページ) <http://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/index.html>



## 革新的なプロダクトやアイデアを創出する イノベーションを推進していきます

リマテックホールディングス株式会社  
代表取締役

田中 靖訓

2015年12月のCOP21において「パリ協定」が採択され、2016年11月に発効しました。序文に「Climate Justice (気候正義)」という言葉を用いて、気候変動問題に取り組むことは正義であると定義し、各国に積極的な対応を求めています。

パリ協定の採択から3年以上が経ちましたが、この間世界全体、特に西欧では積極的な取り組みを進めています。西欧諸国では2025年から2040年の間にガソリン・ディーゼル車の販売を終了することを早々と打ち出し、法制化が進んでおり、ESG投資は世界全体で2012年比+1000兆円、グリーンボンドは50倍にもなっています。

気候変動対応をリードする西欧諸国と比べると日本はかなり遅れていると感じていましたが、最近になってようやく変化の兆しが見えてきているようです。

まずは産業界が動き始めています。これは金融からの圧力が主な要因であると考えられますが、企業が資金調達をする場合に気候リスクへの対応が必要不可欠になってきています。今や大手企業はTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に基づく情報開示を強化し、投資家からの要請に的確に答えていかなければ資金調達に支障をきたすような事態になりつつあり、日本でも先進企業が相次いでTCFDへの対応に着手しています。

一方、日本政府の対応にも少しずつ変化が見え始めています。今年のダボス会議における安倍総理の演説では初めて気候変動や海洋プラスチック問題について言及し、6月に大阪で開催されたG20では海洋プラスチック問題に関して率先して取り組むことを世界に向けて宣言しました。

さらに豪雨や台風など多くの自然災害が毎年発生し、年々激しさを増していることから、気候変動による影響を多くの人が身近に感じる事となりました。

こうした背景から、日本国内においても「気候変動対策は待た無しの状況になりつつあり、積極的に取り組んでいかなければ国際社会から取り残されるだけでなく、安心して生活するための基盤をも脅かされる可能性がある」といった雰囲気徐々に醸成されていると感じます。

このような状況下で、企業は経営上の重要課題のひとつとして自社及びサプライチェーン全体での環境負荷低減目標を掲げ、環境・気候変動リスクに対応し、事業を継続できる環境を整えることが求められています。

気候変動対応は自社の事業活動を広義に捉えて、サプライチェーン全体でマネジメントする必要があることがひとつの特徴であると言えます。以前の企業経営における環境対応、例えばISO14001の取得などは、乱暴な言い方になりますが「机上で解決」できたのに対して、最近では自社の事業活



動におけるサプライチェーン全体に目を配り、実際に経営資源(人・モノ・資金)を投入しなければ対応できなくなっています。言い換えれば、「ごまかしはきかない」ということです。

ただでさえパリ協定で掲げられた目標のレベルはとてつもなく高く、実現のためには「あらゆる対策を、できるだけ早く」実行することが必要な状況です。このことは今後数十年の間に社会システムや人々のライフスタイルが大きく変化する可能性が高いことを意味しています。

「変化」には常に「機会」と「リスク(脅威)」が併存しています。私たちがこれから直面する大きな変化は、新たなビジネスモデルの構築、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野での社会的課題の解決に貢献するための事業につながる大きなチャンスです。同時に、このチャンスをつかまえることができなければ、大きなリスクにもなり得ます。変わっていく時代の先を読み、世界的なマクロの動きを自分たちの事業活動に具体的につなげて「一歩踏み出すこと」が重要であり、「変化」の先に未来があり、自らが変わらなければ将来はありません。

ごまかしが通用しないのであれば、この「変化」を「チャンス」と捉えて積極的に動き始める企業が今後は増えていくのではないかと考えています。

リマテックグループでは、2018年度中にスコープ3に該当するカテゴリのCO<sub>2</sub>排出量の算出を完了し、2019年度上期

には第三者機関による検証を受け、自社のサプライチェーン全体でのCO<sub>2</sub>排出量の把握を終えました。これにより、削減計画の基となるベースラインを正確に設定することができました。

今後はCO<sub>2</sub>削減量をグループ経営管理指標に織り込み、グループ各社の取り組みの進捗管理、評価をするためのインターナルカーボntax制度等の仕組みを整備するとともに、具体的な取り組み事項や削減状況についてはホームページ等で積極的に情報開示することとしています。

また、今後の社会変化に対応するには、エネルギー、モビリティ、デジタル化といった分野をまたいだ横断的なイノベーションによって生み出される新たな社会システムが必要不可欠であると同時に、そのイノベーションを実用化・普及させるためのアイデア、例えばコストを下げるアイデアや生活の質を上げるアイデアも必要となると考えられます。当グループでも社内だけでなく社外の人材、技術、ノウハウ、知識といったリソースまで巻き込んで、革新的なプロダクトやアイデアを創出するイノベーションを推進し、「見たことのない世界」を作ることに挑戦していく所存ですので、ステークホルダーの皆様の変わらぬご理解、ご支援をお願い申し上げます。

リマテックグループの目指す姿を明確にするため、経営理念・経営ビジョンを定めています。理念・ビジョンとして企業の価値を広め、イノベーションを創出し、より良い社会環境づくりに貢献することが、リマテックグループの最大の役割(ミッション)であり、責任であると考えています。コーポレートスローガンを“ Innovation for the Earth ”と定め、事業活動とCSR活動を一体のものとして推進することを目指しています。

## 理念とビジョン

企業理念をもとに、資源循環社会を中心とした環境ビジネスを生業とし、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野での社会的課題の解決を主たる事業領域としています。2010年度より「環境分野における社会的課題に対応するイノベーションの創出」を新生リマテックグループのミッションとし、“ Innovation for the Earth ”をコーポレートスローガンに掲げました。

### 安全衛生理念

リマテックグループは、事業活動等を通じて社会への貢献を図るとともに、社員の安全衛生の確保は企業の存立の基盤をなすものであり社会的責任であることを自覚する。よって人間尊重の理念のもと、「安全第一」、「快適な職場環境」を安全衛生活動の基本理念とする。

### 環境理念

リマテックグループは、地球環境の保全が人間の存続可能な発展のために不可欠な重要課題であることを自覚する。よって、環境負荷低減、省エネルギー、省資源に努め、環境との調和を図りながら、事業活動等を実践し、持続可能な社会の構築に貢献することを環境の基本理念とする。

### コンプライアンスポリシー

企業活動において、ステークホルダーとの関係は極めて重要かつ尊重するべきものであり、法令遵守は社会的責務であると認識しております。法令や定款・社内規程はもとより、社会規範を遵守することを実現するためにコンプライアンスポリシーを制定し、役員および従業員の意識向上とコンプライアンス体制の整備を図ってまいります。



### あるべき社会増の実現

- ◎ すべての人が安全に安心して暮らせる社会
- ◎ 「環境」と「経済」が共存した持続可能な社会
- ◎ 自然の摂理にかなった循環社会

### 企業の役割・社会的責任

- ◎ 価値創造
- ◎ 組織が社会に与える影響に責任をもつ
- ◎ 社会的課題の解決に貢献する

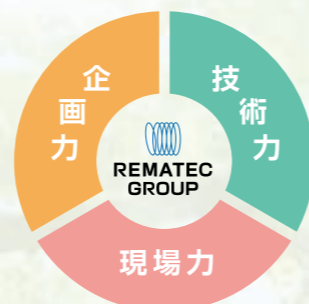
### 「地域の課題解決」を支え、未来を創造する2軸の事業ドメイン

国や地域によって背景も原因も多種多様な環境問題。その課題解決として、リマテックグループでは「資源リサイクル事業」「再生可能エネルギー事業」の2つを事業の軸として、地域の将来を見据え、課題に柔軟に取り組んでいます。



### グループならではの「3つのチカラ」を結集し事業を推進

長年のノウハウと経験による「企画力」「技術力」「現場力」を結集させ、地域に根ざし、地域の声を聞き、そして地域の力を借りながら、それぞれが抱える課題の解決に貢献していきます。



## コーポレートスローガン

# Innovation for the Earth



リマテックグループは、国内外の様々な地域に各拠点を置き、それぞれの事業所が地域に根ざした活動を展開しています。これからも幅広いステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切に、より良い信頼関係を構築し、各拠点から共生の輪が広がっていくよう、グループの総力をあげて取り組んでいきます。

## 環境ビジネス創出会議 「ビジネスセミナー」にて講演いたしました

2019年7月23日 愛知県産業労働センター(ウイングあいち)で、「SDGsと資源循環経営の推進～ステークホルダーと協働で取り組む課題解決～」をテーマに開催された「ビジネスセミナー」に、リマテックホールディングス(株)代表取締役社長の田中靖訓が講演いたしました。リマテックグループにおけるSDGs目標達成に向けての取り組みについて、具体的な事例を含めて発表しました。



講演する田中靖訓社長

## 港湾美化啓発活動に参加しました

2019年6月、岸和田市および岸和田港振興協会が主催する、浜工業公園～阪南1区岸壁までの港湾美化啓発活動に当社社員及び家族の総勢5名が清掃ボランティアとして参加しました。



美化活動後の集合写真

## 企業参画の森づくり

2019年7月13日、臼杵市から委嘱され、リマテック九州で管理している共生の森の草刈りを社員22名で行いました。この森づくり活動は2008年10月18日の植樹からはじめ、11年目を迎えることとなりました。今年は小雨が降る中で草刈りをしましたが、参加者全員が額から汗を流しながら、約1時間かけて生い茂った雑草刈りや樹木を剪定し森林を綺麗にし、すっきりとした森づくりができました。



草刈り後の記念撮影

## 夏の国道花壇の花植え



花植えの様子

植栽後の記念撮影

植栽後

2019年6月10日、臼杵市野津町都松地区いきいき部会様と共に、夏の花を国道502号沿いの花壇に植栽しました。今年は、黄色・オレンジ・ゴールド・赤のマリーゴールド約500株に加え、40日ヒマワリの種を150粒、ほうき草の苗を30株、メランポジウム23株、ペンタス7株も植栽しました。これからも、国道502号を通る方に少しでも喜んでいただけるように管理していきます。

## 文化財めぐり



文化財めぐりの様子

2019年4月21日、臼杵市野津町都松地区振興協議会主催の第二回「文化財めぐり」に、当社から9名が参加しました。天気も良く、地域の方々と一緒に会話をしながら近隣地区の五輪塔・石幢・角塔婆・木彫の阿弥陀仏などを見て回り、歴史を感じる事ができました。イベント終了後には、地区で栽培して作った甘茶をご馳走になりました。

## 環境月間一斉清掃活動に参加!



参加者全員での記念撮影

2019年6月22日、一般社団法人大分県産業資源循環協会主催の「九州ブロックCSR2プロジェクト(環境月間一斉清掃活動)」に、当社から12名が参加しました。この日の清掃活動エリアにある昭和電工ドーム大分は、ラグビー2019ワールドカップの会場であり、収容人員40,000人の大きさを誇る多目的スタジアムです。ボランティア参加者は、各グループに分かれ、昭和電工ドーム大分周辺を約1時間かけ、清掃活動を実施しました。新設された武道スポーツセンターやメインドーム周辺は、景観もよく樹木も綺麗に整備されていて、道路からはごみが見えなくなりましたが、草むらなど見えないところには沢山のごみが落ちており、子供たちが元気に率先して拾う姿に大変感心しました。

リマテックグループは、安全第一・快適な職場環境を基本理念とし、従業員が安全・安心・快適に働ける職場環境の形成から無事故・無災害の達成を目指しています。同時に、環境との調和を図りながら、持続可能な社会の構築に貢献し、環境負荷「0」の実現に向け、国内外の各拠点で日々、事業活動を行っています。

## 2019年度 リメンバー7・28研修会

当社は、平成9年7月28日の事故から今年で21年目を迎えます。世も変わり、当時の事故を経験した社員も少なくなりました。しかし「過去の事故を絶対に風化させてはならない。二度と起こしてはならない」という思いから、今年も7月26日にリマテック九州本社ホールにてグループ各社が集まり、「リメンバー7・28」を開催しました。

午前中は平成25年12月2日に起きた二度目の火災事故の状況を、動画や資料から振り返りました。改めて当時の事故の凄惨さを再認識し、二度と起こしてはいけないと、全員で固く誓いました。

続いて、各社が昨年度の安全衛生活動の結果を報告することで、課題の共有化を図りました。午後からは大分県中部保健所より講師をお招きし、「健康経営」をテーマに講演をしていただきました。講演では、実際に身体を動かし体力測定を行うなど、楽しく学ぶことができました。

その後、グループ討議では「健康経営」を実現するために、今後、どのような活動を実践したほうがよいか、班ごとに討議した結果を発表しました。



研修会の様子



田中社長による全体講評

## 岸和田市災害廃棄物処理

2018年9月4日、台風21号の影響で泉州地域に甚大な被害を受けました。地元の皆さんに少しでも早く通常生活ができるように、災害復旧のノウハウを最大限に活かし取り組みました。



廃棄物集荷作業

## 臼杵市消防危険物協会主催の消火器訓練大会に参加



消火タイムトライアル

2019年6月5日、臼杵市消防危険物安全協会主催による消火器訓練大会が開催されました。

例年、参加しているこの大会に、今年も当社の若手社員2名が参加しました。炎天下の中行われた大会でありましたが、臼杵市内の各企業から多くの参加者が集まりました。大会では、実際に消火器を使い、消火するまでのタイムを競うということで、参加者全員、真剣な面持ちで臨んでいました。この大会で学んだ消火器の取り扱いと非常時対応の初動を、今後の防災活動に活かしていきたいと思えます。

## 強度率&度数率

※製造従事者 集計期間/各年1~12月

対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社、リマテック東北株式会社、リマテックR&D株式会社、RTT株式会社



サービス業平均 (他に分類されないもの) 0.11% 0.42% 0.30%



サービス業平均 (他に分類されないもの) 8.00% 8.63% 6.70%

◆リマテック ■リマテック九州 ▲リマテック東北 ●リマテックR&D ×RTT

出典:厚生労働省の労働災害動向調査より  
 ※強度率/延労働時間当たりの労働損失日数をもって、災害の重さの程度を表す。  
 ※度数率/延労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって、労働災害の頻度を表す。

## リサイクル・再資源化技術を追究し、持続可能な社会と夢のある未来を切り拓く

### 事業内容

- 産業廃棄物処理事業
- 再生燃料(RF)製造事業
- バイオガス発電事業
- 環境修復事業



### トップメッセージ



代表取締役  
塩見 頼彦

事故から回復しつつある今期は、リスク回避安全確保を第一に掲げ、老朽化したプラントの全面改修に着手。

事業運営においてもプロセスに満足するのではなく、効果、実利の追求と合理化、効率化の推進と働きやすい職場環境づくりに努めます。

世界の激しい変化が我々に大きなリスクをもたらします。それがチャンス。成長目標を高いレベルに設定し、スコープ3への対応など脱炭素経営に積極的に取り組みます。

グループ各社、レックスなど同志と共に関西における資源循環インフラとしての地位を確立し、戦略的提携型オープンイノベーションを推進します。

### 【安全対策】墜落防止策

搬入車両上部での荷役作業において、墜落防止策として安全帯設置用具を4箇所に設置。車両の高さは多種多様であるため、社内で検討し業者とも何度も打合せを行い施工した結果、搬入車両全てに対応できるようになりました。併せてセイフティーロックを設置することにより、昇降時の安全性も向上しました。



昇降時



車両での上部作業時

### 【災害復旧】広島県呉市

「2018年7月豪雨」により災害廃棄物が約13万トン発生しました。災害廃棄物処理業務は、地元企業である「株式会社こっごー」様が受注。当社が業務協力依頼を受け、破砕機や選別機等を持ち込み災害廃棄物処理業務経験者2名が業務に携わるなど、早期復旧に向けて貢献しています。(全景写真は呉市より提供)



呉市災害廃棄物二次仮置全景



自走式スクリーン・手選別ベルコン・大型送風機



自走式破砕機

### 【社会貢献活動】障がい者支援～就労場所・機会の支援～

- ①大阪の障がい者賃金は全国で最下位。賃金向上に貢献。
- ②障がい者の就労場所・機会の提供に貢献。

上記2点を少しでも改善するために「自分たちでできることから始めよう」と、障がいを持つ方々の支援に取り組んでいます。今期は「社会福祉法人 美原の郷福祉会 ワークセンターつづじ」様の活動内容を拝見し、感銘を受けたことから、パソコン22台を持ち込みさせていただきました。その際、解体作業を見学し、全て手作業で徹底した分別作業に驚かされました。通常であれば廃棄されるものもありますが、ここでは大部分が有効活用され、かつ支援につながるので、引き続きお手伝いをさせていただこうと考えております。



解体風景



選別風景



集合写真

### 新入社員の声

入社して3ヶ月が過ぎました、当初は分からないことばかりで先輩方から様々なことを学ぶことで大変でしたが、最近は自分に任せられることも出来て少し楽しくなっています。学生の頃は、環境問題への関心が低く、地球温暖化等や海洋汚染の話聞くことはあっても他人事のように感じていましたが、仕事を通じて環境貢献できていると知り、もっと頑張ろうと思っています。



製造部  
池野 和真  
(2019年4月入社)



リマテック九州ホームページ→



事業内容

- 産業廃棄物処理業
- 再生燃料(RF)製造事業
- 産業廃棄物収集運搬業
- 環境修復事業
- 設備メンテナンス事業

## 全てのステークホルダーへの感謝と誠実な対応を心掛け、安全・安心な職場環境を基盤に、「考動」から進化を続ける未来志向型企業へ

リマテック九州は、「資源リサイクル事業」を基軸とし、排出事業者様より処理を依頼された産業廃棄物を原料として、独自の中間処理技術により、セメント会社向けの再生燃料(RF:Reclaiming Fuel)を生産・供給しています。生産工程で起こりうる化学反応リスクを排除するため、危険物製造所の認可や、専門分析部門による成分分析の他に、2018年3月から国際標準化された「ISO45001」(労働安全衛生マネジメントシステム)を基軸とした安全最優先の経営プランの構築に取り組んでいます。これからも、地域との共存共栄の精神のもと、「事故・災害ゼロ職場」「環境負荷ゼロ企業」を目指し、全てのステークホルダーの皆様へ安心・信頼される企業を目指し取り組んでまいります。

### トップメッセージ



代表取締役社長  
矢野 真一郎

当社の基本コンセプトは、創業以来「感謝・誠実・進化」としてしています。これらの言葉の背景としては、各関係先のご協力で事業を続けられることに対する「感謝」であり、事業の透明性確保や法令遵守への積極的な取り組みを絶やさず誓った「誠実」、そして目まぐるしく変化する社会課題の解決を目指し、常に技術革新を惜まず、事業の「進化」を目指す姿勢を表しています。そして、それらをベースに、地域振興活動にも積極的に参画し、地域での企業の役割と責任を十分認識し、地域との共存共栄にも努めています。

一方、グローバルな視点では、地球温暖化問題やSDGs活動をはじめとした持続可能な社会形成が、企業経営に求められてきています。当社の基盤事業である「資源リサイクル事業」「環境整備事業」等に加え、近年増加傾向にある大規模自然災害への対応は、当社の今までの経験とスキルを十分発揮できる場であり、早期復興に協力できると考えています。

これからも、全てのステークホルダーの皆様の負託に応えられるよう、盤石な経営基盤の構築を目指し邁進してまいります。



### Topics01 大分労働局長賞 受賞

2019年7月2日に開催された令和元年度大分県産業安全衛生大会において、大分労働局長表彰奨励賞を受賞しました。これは、安全衛生水準向上を目指し全社一丸となって、職場改善活動や無事故無災害活動を進めていることを評価されたものです。今後もこの受賞に恥じないように社員一人ひとりが安全意識を更に高めてまいります。



大分労働局長表彰奨励賞受賞



### Topics02 第5回 都松地区ふるさと祭り



模擬店の様子

2019年8月11日に開催された地域の夏祭りに、当社が今年も焼肉の模擬店を出店しました。当日、準備から片付けまで参加した社員は37名。年に一度、社員が地域の方々と触れ合う有意義な機会となりました。

### Topics03 日本検査キューエイ社 JICQAフォーラムでの講演

ISO審査登録機関である日本検査キューエイ株式会社が主催するJICQAフォーラムが、東京(2019年2月1日)と大阪(2019年2月12日)で開催され、各分野から各々100名の方々が聴講しました。フォーラムでは、2018年3月に国際標準化機構(ISO)で制定された労働安全衛生マネジメントシステム「ISO45001」の導入ポイントや、企業における取り組みについて、基調講演を行います。今回、その内の一社に当社が選ばれ、ISO45001認証取得モデル企業として、導入後に強化されたリスクアセスメントや、経営に直結する危険源の特定などの安全活動に対する新たな取り組み状況及び、ESG経営やSDGs等、経営サイドから見た今後の事業運用について講演しました。今後も、ISO45001・ISO14001の統合マネジメントシステムを基軸に、皆様に安心・信頼して頂ける自走力のある企業づくりを目指し、取り組んでいきます。



講演中の矢野社長(東京会場)



### Topics04 タイ王国サイアムセメント社から工場見学



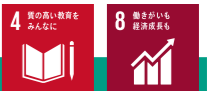
RF生産工程の見学



サイアムセメント社幹部との記念撮影

2019年4月23日、タイ王国サイアムセメント社の経営者・幹部の皆様が工場見学に来社しました。RF製造技術に関しては、タイ王国やその周辺国の事業展開につなぐべく、質疑応答が交わされました。また、各種安全施設・活動の取り組みや地域との共存共栄が事業活動の根本であること等を説明し、当社の経営や諸活動に関心を抱かれたようでした。工場見学では、分析室や制御室を中心に種々の装置に関心を持たれ、現場実作業での質疑応答が続きました。

今後も、事業への理解を深めていただくため、各種団体からの見学依頼には積極的に対応していきたいと考えています。



### 新入社員の声

入社して半年が経過しました。私は、小学校から大学まで「卓球」中心の生活を過ごしてきましたので、入社して最初の頃は、自分に仕事がかねさるか、とても不安でした。しかし、上司・先輩方が熱心に教育・指導して下さったお蔭で、疑問点も一つひとつ解消され、技術を習得する過程で、少しずつ、自信に変わりつつあります。今まで、一つのスポーツを第一線で競い合った経験も活かされていることを実感しています。ただ、まだまだ、新人です。過信することなく、ルール・基礎を第一にステップアップし、キャリアを積んでいければと思っています。今後入ってくる新人にも、同じように指導できることを目標に、日々、成長していきたいです。

営業部営業課  
佐藤 直希(2019年4月入社)



### ステークホルダーの声



都松地区振興協議会  
事務局次長  
河野 俊憲 氏

### 地元企業であるリマテック九州と共に地域の活性化

地域コミュニティーの中核を担っているのが、2015年3月に発足した「都松地区振興協議会」です。設立当初からリマテック九州(株)には物心両面においてご支援をいただいております。特に地域の一大イベントである「ふるさと祭り」では、毎年焼肉を提供していただいております。おかげで、地区住民や、お盆にふるさとに帰省された多くの参加者が毎年楽しめる行事になっており、地域の交流と絆の再生に貢献していただいております。また、御社の業務拡大に伴って施設拡張工事の事前説明会が行われましたが、矢野社長をはじめ担当者の分かりやすい説明で、御社の事業内容や企業理念を深く理解したところでした。地域住民の理解のもと、工事が順調に行われることになりました。これもひとえに地域とリマテック九州(株)との信頼関係の証だと思っております。今後とも地域振興にご理解をいただき、ご支援ご協力をお願いするとともに、リマテック九州(株)が益々発展されることを心から願っています。



事業内容

- 資源循環に関する請負事業
- 資源循環コーディネート業務
- 未利用資源を活用した製品製造業務

## 未来に影響力を持てる企業に!

リマテック東北は、復興が進む岩手県大船渡市を本社に、セメント工場での再資源化に関する請負業務、再資源化コーディネート業務を行っています。また2018年度からは花巻市において、未利用・低価値な資源を原料にしたものづくりを始めました。これらの事業活動を通して、環境や地域への負荷低減だけでなく、社会・地域課題解決につながるような未来への良い影響力を持てる企業になれるように、そして、地域の皆様から必要とされる企業になれるよう、社員一同で努めてまいります。

## トップメッセージ



代表取締役  
野村 朋員

昨年度は、私自身が大部分を作成していたこのレポートも、今年度からは、社員が主体となり作成をいたしました。日々の業務の中で、社員の成長を実感できる機会が増えてきており、今後のリマテック東北の成長を中心となって支えてくれる人材が育ってきていることを頼もしく感じています。

一方で、当社の事業につきまして、地域の復興工事も最終段階に来ていることもあり、大きな転換期となっています。これからの事業としては、2つの展開を進めています。一つが、セメント工場内での資源循環に関する請負業務、二つ目が未利用、低価値な資源を原料としたものづくりです。これらの事業において、社員が安全で動きやすい職場環境の構築、維持をするための労働安全衛生の取り組みと、事業が地域や地球環境に与える影響を管理する環境マネジメント活動を実施しています。

今回のレポートでは、これらの日々の活動についてご紹介しておりますので、皆様の忌憚のないご意見を賜れますと幸いです。

## 社員の声

入社してすぐ東日本大震災による災害廃棄物の処理業務に携わり、その後は太平洋セメント株式会社大船渡工場内において廃棄物の再資源化請負業務として、重機での破碎・選別・投入作業から請負業務の処理計画などの生産管理を行ってまいりました。

現在は管理業務が中心ですが、工場と現場の一体化を図り、作業ロス低減対策や改善策を積極的にご提案していきセメント工場の化石燃料使用量削減に貢献していきたいと考えております。

また、安全衛生環境活動においては、環境社会への貢献とともに安全で快適な職場づくりのために社員一丸となって取り組みを継続し、PDCAサイクルによる安全衛生管理の推進に努めてまいりたいと思います。



製造部製造課生産管理係  
炭釜 哲也

## Topics01 温室効果ガス排出量の削減に向けた取り組み

### 製造部

リマテック東北では、バックホウやホイールローダー、破碎機等の重機機械を使用した業務が多いため、重機燃料使用量削減に向けた取り組みを行っています。前年同月稼働比3%削減を目標に取り組んだ結果、月平均8%削減(抜根破碎業務)の効果が得られました。

作業内容や使用重機の変更により比較が難しい期間もありましたが、今後も重機燃料使用量のデータ収集や作業方法の改善等を進め、更なる温室効果ガス削減に向けた環境活動に取り組めます。



### 主な取り組み内容

- ①燃料調整ダイヤルでエンジン8割運転で作業
- ②運転管理で作業中の無駄な運転やロスを削減
- ③日々のパトロールで現場確認と取り組みの周知徹底

### 業務・営業部

業務部、営業部は事務所内の電気製品の消費電力を調査し、利用していない部屋の空調・換気の停止、照明点灯時間の短縮など、無理のない運用改善をすることによって効果が得られる節電対策と専門家による省エネ診断の受診を行い、事務所内電気使用量の年間目標(前年度比 2%削減に対して9.8%削減)を達成することができました。今後も、快適な職場環境を保ちながら節電に取り組んでいきます。

## Topics02 花巻ラボの取り組み



おから



リンゴの花

2018年8月より取り組みを開始した未利用・低価値資源を原料としたものづくりは、いよいよ事業化に向けたステージに入りました。

優先的に取り組みを実施しているのは、「おから」と「りんご栽培の過程で未利用であった原料」の高付加価値化です。

おからは栄養や食物繊維が豊富であるにもかかわらず、傷みが早いことから全量が市場に流通していません。また、りんご栽培過程において、摘花、摘果、剪定といった作業がありますが、花、実、枝も全量が有効活用されていないのが現状です。

これらの原料に対して、いかに付加価値を加えられるか検討を重ね、いよいよ商品化に向けた取り組みまで進んでいます。

日本が大切にしてきた「余すことなく使う」といった精神、文化を継承し、これまではLossとなっていた地域資源をBenefitに転換する。また、商品を手にとっていただいた方々に、このような背景を「知る」「考える」「行動する」きっかけづくりにつながる、そのような事業を目指しています。

## Topics03 廃棄物の再資源化コーディネート業務

営業部では、再資源化コーディネート業務として「再資源化が可能なものは再資源化へ」「不要物を有価物へ」といった処理困難物の解決策等の資源循環のご提案を行い、お客様の課題解決はもちろん、双方のメリットとなるような活動に取り組んでおります。

2018年度は、お客様からの要望が多かった窯業系サイディングのリサイクルや、建設現場から突発的に排出される処理困難物のご相談など、資源循環に関する課題を解決してまいりました。

近年問題となっております廃プラスチック処理につきまして、分別体制を構築し多方面へのご提案をさせていただきます。

今後も「3Rの推進」を活動の軸として環境への負荷を低減させ、限りある資源を有効活用できるよう努めてまいります。



窯業系サイディングのリサイクル



加工後のプラスチック再生原料





## 脱炭素社会の実現と ワークライフバランスの向上に向けて

### 事業内容

- 新規事業・技術の開発
- コンサルティング業務

リマテックR&Dは、グループ企業等パートナー企業との協働で、脱炭素社会の実現に向けた温室効果ガス削減に寄与する資源循環システムの構築に取り組んでいます。

これまで廃棄物・リサイクル分野で培ってきた技術・ノウハウ・知識等を活用し、多様化・複雑化をみせる国内外の様々な環境課題に対して、コンサルティングや事業化を通じたイノベーションによる解決に取り組んでいます。

また、自社においても、長時間労働の削減やストレスチェックの実施などワークライフバランスの向上や多様な働き方の実現に向けて、働き方改革にも積極的に取り組んでいます。

### トップメッセージ



代表取締役社長  
伊藤 大輔

当社はリマテックグループの経営理念の冒頭にある、「技術をコアに…」という「技術」を支える開発部門と、グループ全体の経営戦略・管理や温室効果ガス削減への取り組みを先導する業務部門で構成されています。

開発部門では、廃棄物・リサイクルといった分野に留まらない幅広い知識と技術を活用し、グループ個社が抱える目の前の事業課題の解決やリマテックグループの将来を担う新たな事業化に向けた取り組みを行っています。近年では、廃棄物からレアメタルを回収する事業、マレーシアにおける未利用バイオマス資源を燃料として有効活用する事業、さらには、当社グループの主力事業であるRF事業をタイ王国でも実施するための事業化検討をパートナー企業と協働で取り組んでいます。

業務部門では、財務分析等の経営管理指標のとりまとめの他、グループ全体の温室効果ガス排出量の把握と削減目標の設定、中小企業向けRE100であるRE Actionへの参画とそれらの実現までの中長期計画策定・実行など、リマテックグループが目指す脱炭素社会の実現に向けた活動を支援しています。

『見たことのない世界への挑戦』には、これまでの常識にとらわれないワークライフバランスを形にした多様な働き方を実現させ、社員全員が、仕事に誇りとやりがいを感じながら業務に携わることができる企業を目指してまいります。これまでの取り組みを支えてきた人材こそが、当社の最大の強みであり、社員全員とその家族が、心豊かに充実した生活を送ることが自由な発想を生み出し、今後の様々なイノベーションへとつながると考えています。激しく変化する世界に対して、常に「機会」と「リスク」を意識しながら、全てのステークホルダーの皆様へ安心・信頼される企業になれるように努力してまいります。

### 社員の声

リマテックR&Dでは2017年度より働き方改革に力を入れており、特に社内全体の目標として月の残業時間10時間以内を掲げて取り組んでいます。

そのような中、産休・育休を取得することになりました。事業開発部所属のため薬品を扱う分析・開発業務へ従事していましたが、妊娠報告後はすぐに業務担当の調整が行われ、より安全且つフレキシブルな就業態勢へ変更していただきました。部内・部外の方々からご協力・ご支援、温かいお言葉をいただき、無事出産を迎えることができました。

復職後も変わらず会社全体の臨機応変なサポートがあり、家庭との両立ができています。

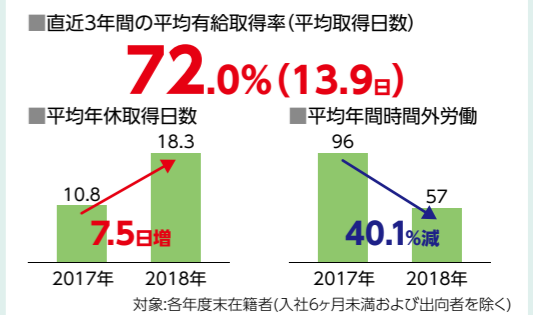


事業開発部  
山田 万世

### Topics01 ワークライフバランスの向上に向けて

当社では、業務の効率化により長時間労働の削減を図ることを目的に残業時間上限目標を設定しています。これにより、社員それぞれが時間管理や業務の見直し、効率的な働き方を意識するようになり、前年度比40.1%の削減を実現しました。また、年休取得日数も増加しており、直近3年間の平均有休取得率は72.0%となっております。

社員全員が仕事にやりがいを感じながら豊かで充実した生活を送ることができるよう、ストレスチェックの結果分析や社員ヒアリングを実施するなど、積極的に職場環境とワークライフバランスの向上に努めます。



### Topics02 海外へのRF事業展開

リマテックグループの主力製品であるRF燃料は、代表的な化石燃料である石炭の代替燃料となることから、温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>の発生抑制にも貢献します。

リマテックグループでは国内での30年以上の実績を基に、海外へのRF事業展開を検討しています。

2019年度には公益財団法人廃棄物・3R研究財団の「我が国循環産業の戦略的国際展開による海外でのCO<sub>2</sub>削減支援事業」に採択されました。今後グループ一丸となって取り組みを進め、脱炭素社会への実現に貢献していきます。



### Topics03 海外におけるEFB有効活用プロジェクト



当社はマレーシアにおいて、未利用バイオマスであるEFBを処理し、不純物の少ないバイオマス資源の有効活用プロジェクトに取り組んでおります。設備が本格稼働する前に、品質管理業務に従事する現地分析員の教育を実施しました。現地分析員への教育では、分析能力を養成するため、サンプルの熱処理前後の組成変化について検討し、データの収集・分析業務では、実験方法や分析方法の演習も取り入れました。現地の方々への業務技能習得に対する姿勢は非常に熱心であり、今では彼らが主となって製品品質管理に大きな役割を果たしてくれています。現地グループ会社や現地企業とのパートナーシップによる積極的な協働により、資源循環インフラの構築に向け取り組んでいきます。



### 現地の声

私が所属する The Green Biomass は、パーム油製造業から副生する廃棄物から化石燃料代替エネルギー源となる新燃料を製造するプロジェクトにリマテックグループと共に取り組んでいます。現在、直面するさまざまな課題にチャレンジしていますが、近い将来にはパーム油産業とエネルギー産業に革新的な進展をもたらし、より良い地球環境を次世代へと残すことにも貢献できると信じています。この信念を持って、引き続き全力を注いでいきます。



The Green Biomass  
Claude Chong



事業内容

- 一般貨物運送事業
- 産業廃棄物収集運搬業
- 海上運送事業
- タンク洗浄工事業
- 労働者派遣業

トップメッセージ



代表取締役  
久永 勇

2050年の運送業において「見たことのない世界」とは、MaaSやCASEの実現による交通革命と考えます。移動手段が効率よく横断的につながり利便性をもたらす「人やモノの移動のワンストップサービス」が進み、循環資源物(産業廃棄物)も統一されたプラットフォームを利用し運ばれる「単なる一つの商品」となり、資源循環物収集運搬業は消滅していると考えています。また、トラックは電動化や水素利用によりCO<sub>2</sub>排出量を削減し、自動運転や車両情報の共有化により安全で簡単な運転が実現されていることでしょう。このエネルギー革新により新たな物流インフラが必要となるなど、今後「運ぶ仕事」は新たな市場をつくりだせる「期待に満ちたワクワク」するものになると信じています。

このような大転換期を目の前にしても、いまだ産業廃棄物処理業界は、ほとんどの企業が人材育成や技術の向上が困難で、閉鎖的で新規参入を拒むものとされています。

当社は、株主である三岐通運株式会社(中部地区粉粒体貨物輸送トップ企業)の指導により産廃運搬から人材育成にコストをかける貨物輸送事業者へと変革し、業界内での中立的な立場を活かして輸送事業者との連携を拡大しています。今後、資源循環物に関する「タテ・ヨコ連携のハブ機能」を武器に、「つながる」プラットフォームの構築に貢献してまいります。しかし、今、目の前に会社存続を揺るがす問題が山積しています。運転手不足を解消するための「人とトラックの共有化」、長時間労働を軽減するための「中継物流」など、他社と協業しながら資源循環物流が途切れることのないよう努力してまいります。

運送技術力の拡大

一昨年の本誌より、毒劇物・特殊車両の運送技術の向上についてご紹介しました。この業務の目的は、運送にとどまらず毒劇物の資源循環ビジネスへの参入のきっかけとしていますが、そのほかに特殊タンク車専門会社になるために残された最後の技術を習得することでした。運転手は、特殊な技術を必要とする新しい運送業務に対し「自らが考える」ことで技術を習得しました。

前回、運転手の業務に対する気持ちを明確にし、管理者は個々の意識レベルに応じて手が届く目標を与え、成果を正しく評価し次のステップへのアドバイスを行いました。その結果、これまでは「意見を出しても適当な対応で何も変わらない」との思いが強かったのですが、自らが考え、意思を伝え、みんなで決定し行動することが多くなり、会社の成長につながりました。

しかし、「個々への対応」はドライバーが少数だから実現できたことです。今後は、管理者1人に対しドライバー30人の場合にどのような育成方法が必要なのかを考えてまいります。



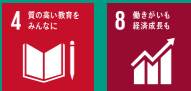
荷役技術を売る



「見たことのない世界」として、トラックの都市部での自動運転があげられますが、完全運転自動化が30年以上先であった場合、当面はドライバーが必要となります。しかし、この自動運転が「トラックドライバーの新しい魅力」となり人材確保の大きな要因となると考えています。今後、運転とは簡単でストレスのない自動運転中の車内で「快適で自由な時間を過ごすこと」となり、仕事は「荷役作業のみ」となる可能性があります。

プライベートな時間を優先したい労働者にとって「見たことのない仕事」になることは間違いありません。この運転手(荷役作業)に対して、当社の特殊タンク車の荷役技術を習得したドライバーが教育できることをサービスの一つとしてまいります。

Topics RTTの魅力・未来の自分



①環境に対する取り組み

- ◎石炭灰等の産業廃棄物を捨てるのではなく、セメントや、石膏ボード、外壁材等の製品に再利用する工場への運搬において、地球環境に対する取り組みに魅力を感じます。
- ◎RF運搬においても、廃油・汚泥・ばいじん等の、産業廃棄物を再利用し、燃料として再利用するという、リサイクルやエコロジーといった面においても魅力を感じます。



九州支社  
西山 薫

②災害に対する取り組み

- ◎熊本地震や西日本豪雨による災害等にも車両や人員を派遣し、がれきの運搬等、被災地支援に取り組んでいる面においても魅力を感じます。

5年後の自分  
九州支社における、すべての業務に精通し新人や未経験の方が来ても、すぐに教育・指導が出来るようになってほしいと思います。また、いかなるイレギュラーな事態が発生しても、直ちに冷静に対応できるように、経験を積み、臨機応変さを身につけてほしいと思います。

10年後の自分  
他人に頼るのではなく、皆から頼られるようになってほしいと思います。チームワークを大切に、皆をまとめて率先して行動しひたひたに行けるようになってほしいと思います。いかなる状況においても的確に判断し、指示・指導・対処が出来るようになってほしいと思います。



九州支社  
岡部 誠

①人材育成

私は、一年前にRTT株式会社に入社しました。それまでは中型トラックでの食品の配送だった為、全ての業務が初めてのことでばかりで緊張していました。パキューム作業もそうですが、特に運転になかなか慣れることができず自信が持てませんでした。ですが、私が理解できるように社長をはじめ上司の方々が丁寧に教えてくださり、何とか立ちをすることができました。また、三重県の三岐通運で2週間の研修期間を設けていただきました。ジェットパックの操作と業務内容を教わったことで、これからの仕事に対して自信を持つことができました。

将来について  
仕事に慣れてきて、気持ちに余裕ができて初心を忘れず業務に取り組んでいきます。そして、経験を積み、人材の育成ができるようになりたいです。

上司より



九州支社 課長  
広瀬 幸憲

私が入社して30年間で経験・体験したことをもとに、彼らが仕事で悩んだとき、失敗したときに適切なアドバイスができればと思います。また、素直な二人なので、いろんなことにチャレンジし経験を積み、5年、10年先には後輩たちを引っ張ってゆくリーダー、管理職になることを楽しみにしています。いつまでも、この野津町で頑張ります。

10年後の自分



大阪支社  
山中 研司郎

RTT株式会社に入社して早3年になりました。これから先にながらあるかわからないけど、5年後、10年後には、けん引の免許を取ってトレーラーの運転をできるようになりたいです。そして無事故、無違反をこれからも継続できるようにやっていきたいです。後、漏洩事故などのイレギュラーがおこった時に、冷静に状況判断しすぐに対応して2次災害をおこさないように専門知識を勉強し行動をできる人間になってほしいなと思っています。そして新しく入ってくる人にしっかりと指導できるようになっていきたいです。

5年後の自分



大阪支社  
新城 直樹

私は産業廃棄物の仕事に携わるようになって、1年が経ちました。未経験からのスタートでまだまだ覚える事がたくさんありますが日々諸先輩方に教えていただいています。5年後にはただ仕事をするだけの「人材」ではなく「君に任せておけば大丈夫」と言われるような「人材」になってほしいと思います。また自社で車両の整備や修理、現場ならではの発想でのカスタマイズが出来る様な工場ができていたらと思います。

上司より



大阪支社 課長 吉田 孝

時代の変化は早く、5年先・10年先はどうなっているかは分からないのですが、山中さんが描いた「指導の出来る人間」になるために、経験を積み重ねて気持ちに余裕を持って判断の出来る人間に育てたいと思います。また、新城さんが描く未来に対しては、「君に任せておけば大丈夫」とみんなから言われる人材になれるよう、確かな作業手順を習得し、人と人のつながりを大切にしてもらいたいと思います。それぞれに描いた未来を実現させ、個人個人の宝にしてほしいです。



# RF事業における環境パフォーマンスデータ

対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社、RTT株式会社 集計期間/2018年4月~2019年3月  
 ※今年度よりGHGプロトコルに沿って算出しています。また2015年度以降のCO<sub>2</sub>排出量についても見直ししました。

## INPUT

資源 ※省エネ法適用外

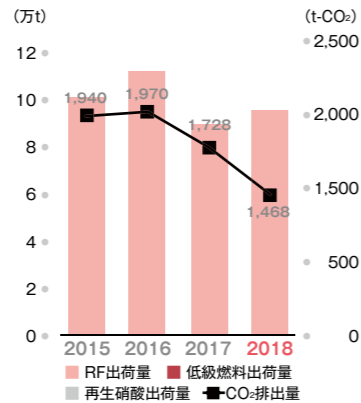
ガソリン(kℓ)	27
プロパンガス(m)	202
軽油(kℓ)	74
A重油(kℓ)	66
灯油(kℓ)	0
電力(kWh)	2,372,577
用水(m)	23,433

リマテック リマテック九州

ガソリン(kℓ)	5	22
プロパンガス(m)	138	64
軽油(kℓ)	45	29
A重油(kℓ)	0	66
灯油(kℓ)	0	0
電力(kWh)	900,875	1,471,702
用水(m)	10,448	12,985

## RF production

### 再資源化とCO<sub>2</sub>排出量の推移

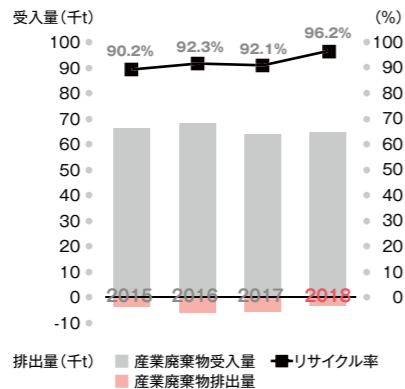


## OUTPUT



内訳	リマテック	リマテック九州
①産業廃棄物 (t)	31,268	31,231
廃油	23,622	14,105
汚泥	1,842	12,303
廃酸	2,221	1,334
廃アルカリ	2,821	2,079
ばいじん	82	922
廃プラスチック類	673	62
動植物性残渣	7	407
もえがら	0	14
金属くず	0	5
ガラス・陶磁器くず	0	0
②船舶廃油 (t)	0	1,604
③原材料 (t)	9,704	20,781
再生燃料	9,704	20,781

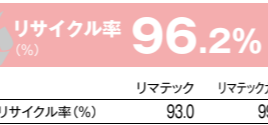
### 廃棄物とリサイクル率の推移



有価金属くず 1,027 (t)

内訳	リマテック	リマテック九州
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	520	948
再資源化物出荷量 (t)	43,639	54,402
RF出荷量	43,639	54,402
低級燃料出荷量	0	0
産業廃棄物排出量 (t)	2,207	350
再生残渣量	2,182	280
空容器量	25	70
廃プラスチック類	20	70
金属くず	0	0
木くず	5	0
紙くず	0	0
がれき類	0	0
繊維くず	0	0
ガラスくず	0	0
有価金属くず (t)	603	424

### 収集運搬における軽油使用量とCO<sub>2</sub>排出量の推移

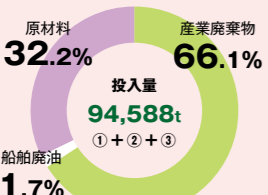


収集運搬業務

CO<sub>2</sub>排出量 1,328 (t-CO<sub>2</sub>)

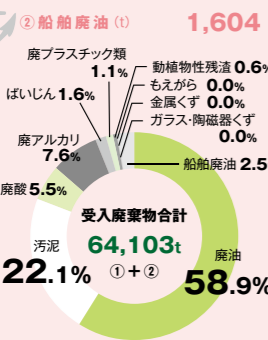
RTT 大阪支社	RTT 九州支社	リマテック九州
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	517	323
		488

## RF製造原料



①産業廃棄物 (t) 62,499

廃油	37,727
汚泥	14,145
廃酸	3,555
廃アルカリ	4,900
ばいじん	1,004
廃プラスチック類	735
動植物性残渣	414
もえがら	14
金属くず	5
ガラス・陶磁器くず	0



## 収集運搬業務

軽油 (kℓ) 507.0

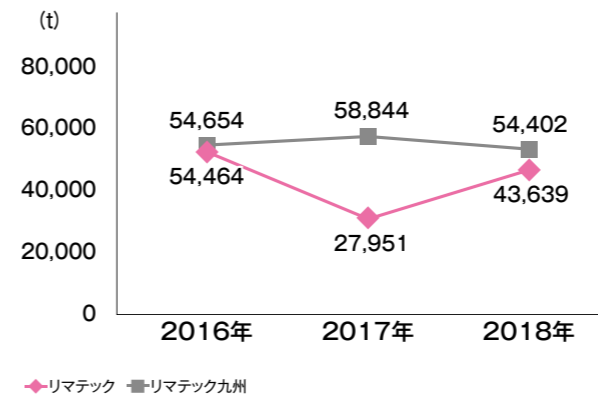
ガソリン (kℓ) 3.0

RTT 大阪支社	RTT 九州支社	リマテック九州
軽油使用量 (kℓ)	194.0	124.0
		189.0
ガソリン使用量 (kℓ)	2.0	1.0
		0.0

# 2016-2018年度 リマテックグループデータ実績

## RF出荷量

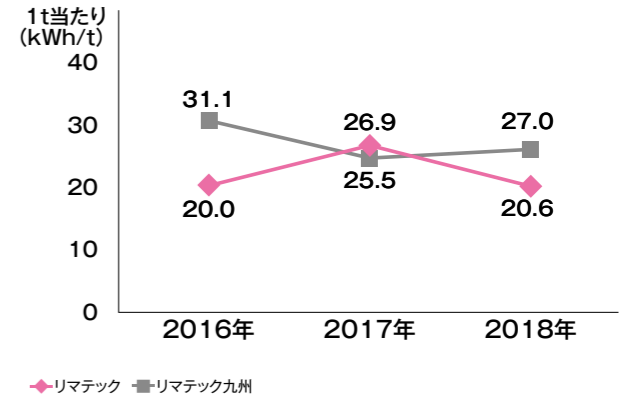
対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社



## RF電力消費量

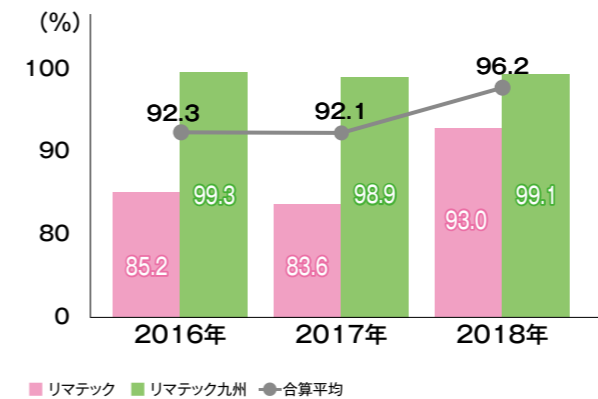
※RF出荷量に対する電力消費量

対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社



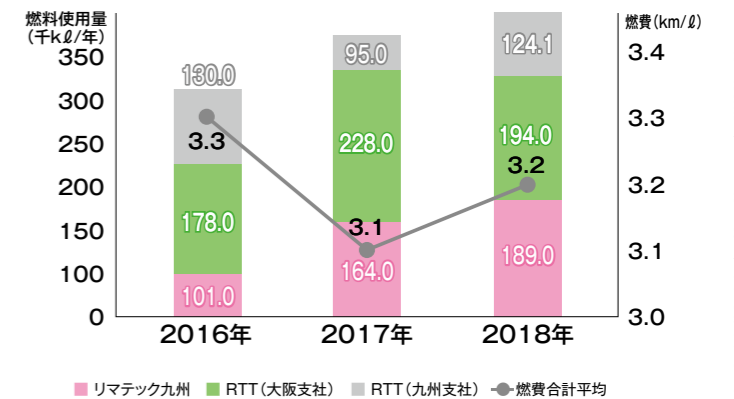
## リサイクル率

対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社



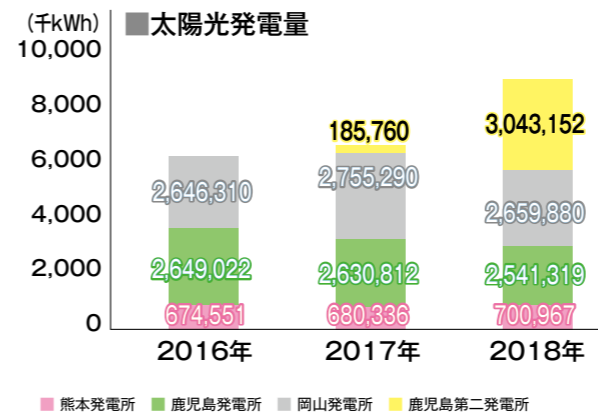
## 燃料使用量と燃費

対象/RTT 株式会社



## 太陽光発電量&CO<sub>2</sub>削減量

対象/熊本発電所、鹿児島発電所、岡山発電所、鹿児島第二発電所



※各発電所 発電開始日 熊本発電所/2014年8月22日 鹿児島発電所/2014年11月27日 岡山発電所/2015年3月27日 鹿児島第二発電所/2018年3月15日



DATA

# 環境・安全衛生活動報告データ (重点取組を一部抜粋)

### リマテック

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境管理活動	再資源化における天然資源の枯渇抑制	出荷目標 RF燃料：54,000t/年	RF燃料を安定出荷することで天然資源の枯渇抑制	RF燃料：43,639t/年	×
	電力削減	RF燃料1t生産に当たり、電力消費量：18.5kWh以下	■夜間使用電力の削減 ■必要のない設備の停止 ■デマンドコントロールの運用方法の見直し	電力消費量：17.0kWh/t	○
	法規制遵守 (悪臭防止法)	臭気測定 敷地境界線(臭気指数10未満・排気口38以下)	臭気測定：2回/年(4月、10月実施)	測定実施：基準値内	○
安全衛生活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全・衛生 防災	■ISO14001登録認証 ■地震発生による火災想定、避難訓練	審査認証登録 ■防災訓練の実施：1回/年 ■緊急時対応手順の確認	2019年12月認証取得予定 1回/年実施(3月26日)	○

### リマテック九州

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境管理活動	地域との共存共栄	騒音・臭気等のクレーム：0件	■定期的な環境ハトールによるチェック ■夜間作業時の相互注意	0件	○
	電力削減	RF燃料1tあたりの電力消費量の削減：28.0kWh/t	■攪拌機等の設備の削減 ■ライトのON/OFFなど小まめな電力削減	27.0kWh/t	○
	水質・土壌汚染防止	汚れた雨水の排出防止：0件 (pH:5.8以上～8.6以下 透視度:500mm以上)	■雨水処理設備の定期的なメンテナンス ■放流水(雨水)の日々の監視 ■3者(近隣住民・行政・当社)立ち会いのサンプリングから水質検査	0件(pH:5.8以上～8.6以下 透視度:500mm以上) (第三者機関の水質検査水質基準クリア)	○
安全衛生活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全	事故・災害：0件	■社長ハトールを強化し、作業標準に基づいた動作チェックを実施 ■客先構内作業時に管理者層ハトールを実施 ■リスクアセスメントの実施 ■定期的な安全教育の実施 ■リスク削減に向けた設備改善	2件	×
	衛生	健康個人目標の達成：85%以上	■健康個人目標達成状況の進捗管理 ■産業医・保健師による面談及び指導 ■ストレスチェックの実施	98%	○
安全衛生活動	防災	防災訓練：1回/年	■火災事故発生時の緊急時対応訓練実施 ■安否確認メール配信システムの運用	1回/年 実施	○
	交通	交通事故：0件	■課内での事故事例検討 ■法定速度遵守及び車間距離確保の指導・励行 ■交通安全運動に参加(期間中、街頭指導8回実施) ■豊の国セーフティーチャレンジ2018に参加	0件	○

### RTT

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境管理活動	地球温暖化の防止 (燃料使用量の削減)	燃料使用量の削減 目標：燃費 3.6km/l(大阪支社)	添乗指導により、ムリムダムラムボウを自覚・納得させ、排除する	3.18km/l	×
	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
安全衛生活動	交通	人身事故：0件	添乗指導により、基本動作を確認し、自覚・納得させ自信を持たせる	0件	○

### リマテックR&D

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境管理活動	電力削減	前年実績より3%削減(年間平均9,619kWh以下) ※集計期間変更に伴い目標変更	■未使用場所(室内)の消灯徹底 ■使用電力確認 ■前年実績より3%削減(年間平均9,619kWh以下)	2018年度実績:85,199kWh(28.4%削減) (年間平均7,100kWh)	○
	資源循環への貢献	廃棄物からのレアメタル回収事業の事業化	技術確立については目標達成 事業化再検討により目標(計画)計より除外	—	—
安全衛生活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全	事故・災害：0件	■KY活動・定期ハトールの実施 ■法令・規程の遵守 ■リスクアセスメント実施およびハトールマップの作成・更新と周知 ■緊急事態への対応訓練 ■教育と力量評価	事故:0件	○
安全衛生活動	衛生	■ストレスチェック実施 ■健康診断受診率：100%	■ストレスチェックおよびフォロー実施 ■定期健康診断の受診 ■個人ごとでの衛生目標の立案・実施	■ストレスチェック実施(1月) ■健康診断受診率：100%	○

### リマテック東北

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境管理活動	請負業務での環境保全	周辺環境に配慮した作業の実施	■発塵防止 ■重機での燃料使用量削減(前年度同月稼働比3%減) ■事務所内での電気使用量削減(前年度比2%減)	■苦情:0件 ■発塵防止:散水車にて対応(4月～11月) ■重機使用料(抜根破砕業務)前年同月稼働比 月平均 8%減 ■事務所内電気使用量 前年度比 9.8%減	○
	セメント再資源化への貢献	請負業務の全量適正処理 受入拒否:0件	■当社設備トラブルの防止・対応	■受入拒否:0件達成	○
	地域環境保全活動	清掃活動の実施	■工場周辺道路や河川堤防等でのゴミ拾い	■7月、10月に東道沿い清掃を実施(市内クリーン作戦に参加) ■月1回構内を一斉清掃実施	○
安全衛生活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全	■不休・休業災害 0件継続 ■重機・車両による物損事故 0件 ■危険予知の強化(教育、講習) ■日常の安全活動の充実	■始業前KY完全実施 ■始業前や休憩後に指差し唱和 ■外部教育の受講 ■ヒヤリハットの抽出・リスクアセスメント確実に実施 ■相互注意の積極実施 ■指差し呼称の完全徹底 ■安全保護具の着用徹底 ■重機操作のスキルアップ ■作業手順書の見直し	■不休・休業災害:0件 ■重機・車両による物損事故:0件 ■KYスキル向上のため、外部教育、内部教育を定期実施 ■指差し呼称を個人安全目標に設定 達成率:100% ■管理者ハトール、日常巡視によるルール順守の確認 ■就業指名対象者の再評価全員合格	○
	衛生	■個人健康目標達成率：85% ■定期・特定健康診断実施率：100% ■快適な職場環境の推進	■自主健康管理目標を設定し、生活習慣病等の抑制を推進 ■定期健康診断の受診、有所見者再検査の受診を推進 ■インフルエンザ等流行性疾患予防 ■安全衛生保護具(防護マスク、安全带)の点検実施 ■安全衛生教育の実施	■個人健康目標達成率：90% ■定期・特定健康診断、インフルエンザ予防接種実施率：100% ■安全衛生保護具(防護マスク、安全带)点検を実施:1回/毎月実施 ■心、身体の健康に関する講習を実施:3回/年実施	○
安全衛生活動	防災	■火災や油漏れ、自然災害発生時への準備と対応教育、訓練の実施 ■交通違反、事故 0件	■緊急時対応訓練及び避難経路の確認 ■消火設備の定期点検、対応教育の実施 ■交通安全を推進し定期的に啓蒙活動を実施	■災害時(地震、津波、火災)訓練の実施:2回/年 ■緊急時(油漏れ)訓練、散水車操作訓練の実施:2回/年 ■交通違反、事故 0件	○



DATA

# 3カ年目標 (2019-2021年度) (重点取組を一部抜粋)

### リマテック

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
環境管理活動	RF燃料の安定作業	44,000t	44,500t	45,000t	■RF燃料の最適な配合率を確立し安定化を図る ■リスクアセスメントの実施を行い、計画的に設備改善を図る		
	法規制遵守 臭気指数・敷地境界線・臭気指数10未満	臭気指数10未満	臭気指数10未満	臭気指数10未満	■作業時シャッター運用方法の徹底 ■日々ハトールにてチェック		
安全衛生活動	RF燃料1tあたりの電力消費量	18.47kWh	18.3kWh	18.2kWh	■既存機器の停止以外にも新たに停止できる機器の検討(2019年度) ■デマンドコントロールシステムの見直し(2020年度)		
	項目	目的・目標	2019年度	2020年度	2021年度	実施項目の計画	
安全	強度率：0%	強度率：0%	強度率：0%	■リスクアセスメント活動中からポイントの高い部分を優先に改善を実施 ■毎月経営者ハトールを実施			
衛生	健康管理目標達成:90%	健康管理目標達成:90%	健康管理目標達成:90%	■健康診断の結果の悪い社員を中心に産業医の指導のもと、個人健康管理目標の設定数値見直し(生活習慣病改善を図る)			
防災訓練 (地震発生から火災想定)	火災想定、避難訓練 1回/年	火災想定、避難訓練 1回/年	火災想定、避難訓練 1回/年	■地震発生→火災発生→初期消火活動→避難場所までの避難(南海トラフ巨大地震発生想定)			

### リマテック九州

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
環境管理活動	電力(RF燃料1tあたりの電力消費量)	25.3kWh/t	25.2kWh/t	25.1kWh/t	■低電力消費設備への変更を検討 ■月々の電力消費の目標値をクリアするため調整と検討を実施 ■日々、攪拌機等の間欠運転等に努め電力を削減		
	安定作業の推進 (RF生産目標の達成)	55,000t/年	56,000t/年	57,000t/年	■定期的な設備点検と修繕による生産設備のフル稼働 ■タンク内性状(pH・圧力・温度等)を徹底監視し異常反応を抑制 ■科学的解析手法等の導入で廃棄物の搬入安定システムの構築 ■RF生産ライン等の設備自動化の模索 ■QC活動・社内外教育・現場OJTを通じた、将来を担う人材の育成強化 ■処理困難廃棄物への対応力強化に向けた技術力の強化		
	放流水の水質	pH:5.8以上～8.6以下、透視度:500mm以上			■放流水(雨水)の日々の徹底監視 ■雨水処理設備の定期的なメンテナンスによる機能維持 ■3者(近隣住民・行政・当社)立ち会いのサンプリングから水質検査		
安全衛生活動	項目	2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
	安全				■三現主義(現場・現物・現実)の実践で職場の不安定状態を根絶 ■6S(整理・整頓・清掃・清潔・躰・作法)の徹底による安全に強い人づくり ■行動する前にリスクを洗い出し、考えて動く「考動」の徹底 ■管理層のハトール強化(客先構内作業のハトール、作業標準に基づいた動作チェック等) ■社員フェーストと働き方改革を軸に、心身を健全に保てる労働環境づくり ■事故・災害リメンバークンパスターによる類似事故防止 ■過去の事故災害の原因と教訓の継承教育 ■法令及びISO規格を実践し、コンプライアンス遵守と事業リスクの徹底排除		
安全衛生活動	衛生	健康個人目標の達成:90%達成	健康個人目標の達成:90%達成	■健康個人目標達成状況の進捗 ■ストレスチェック結果の活用 ■産業医・保健師による面談及び指導 ■「事業所ぐるみで運動チャレンジ事業」に参画			
安全衛生活動	防災	火災事故:0件 漏洩事故:0件	火災事故:0件 漏洩事故:0件	■混合テスト及びタンク内性状の徹底監視 ■安否確認メール配信システムの運用 ■火災事故発生時の緊急時対応訓練実施			
安全衛生活動	交通	交通事故:0件 違反:0件	交通事故:0件 違反:0件	■加害事故:0件 ■行政機関等による交通安全活動に積極的に参加 ■課内での事故事例検討			

### RTT

環境管理活動	項目	2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
環境管理活動	地球温暖化の防止 (燃料使用量の削減)		燃費：3.6km/l(大阪支社) 燃費：2.64km/l(九州支社)		■添乗指導により、ムリムダムラムボウを自覚・納得させ、排除する (運転経験の少ない新人の採用及び車両の老朽化により目標は現状維持とする)		
	項目	2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
安全衛生活動	交通		人身事故：0件		添乗指導により、基本動作を確認し、自覚・納得させ自信を持たせる		

### リマテックR&D

環境管理活動	項目	2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
環境管理活動	電力削減	前年実績より2%削減	前年度実績維持(±1%以内)	前年度実績維持(±1%以内)	■未使用場所(室内)の消灯徹底 ■使用電力確認 ■前年実績より3%削減(年間平均6,958kWh以下)		
	項目	2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
安全衛生活動	事故・災害の撲滅		事故・災害発生件数:0件		■リスクアセスメント活動中からポイントの高い部分を優先に改善を実施 ■毎月経営者ハトールを実施		
	社員の健康管理		■ストレスチェック実施:1回/年 ■健康診断受診率:100%		■ストレスチェックおよびフォローの実施 ■定期健康診断の受診 ■個人ごとでの衛生目標の立案・実施		

### リマテック東北

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
環境管理活動	地域環境保全・地域貢献		工場周辺美化活動への参加:2回/年以上		■工場周辺道路の美化活動(ゴミ拾い)参加 ■河川堤防沿いの美化活動		
	請負業務での環境保全		■油漏れ防止の河川流出防止 委託先からの苦情0件 ■重機での燃料使用量の削減 前年同月比:2%減 ■化石燃料使用の削減		■緊急事態への対応訓練(油漏れ) ■重機での燃料使用量削減策の検討/実施 ■散水車にて随時対応		
	資源循環への貢献 (経営課題/顧客ニーズから)		■廃プラスチック破砕処理量の増加と安定供給 ■セメント工場での再資源化への貢献		■廃プラスチック破砕業務の停止ロスの低減、安定供給につながる投入方法の検討 ■新処理方法の提案等		
安全衛生活動	項目	2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
	労働災害0件の維持		強度率、強度率、千人率：0%継続		■ヒューマンエラー対策の実施 ■KY活動、ルール順守確認(管理職ハトール) ■設備、動線変更での安全対策 改善提案の実施等		
安全衛生活動	物損事故0件の達成		重機作業での物損事故削減 物損事故：0件		■始業前KYの確実な実施 ■指差呼称の定着化 ■専門教育の受講 ■基本的事項の再徹底		
安全衛生活動	社員の健康管理		個人衛生目標の達成 85%以上継続維持		■個人毎の衛生目標の立案・実施 ■定期健康診断の受診		

環境パフォーマンスステータス

データ実績

2018年度実績

3カ年目標

第三者意見/第三者意見を受けて

企業情報

環境パフォーマンスステータス

データ実績

2018年度実績

3カ年目標

第三者意見/第三者意見を受けて

企業情報



## 第三者意見

認定NPO法人環境文明21代表  
藤村 コノエ 氏

長年、リマテックの報告書を拝見してきましたが、廃棄物処理から資源循環・脱炭素へ、国内から世界へと視点が広がり、内容も随分充実してきたことを強く感じます。

昨年のトップメッセージでも、「見たことのない世界」への挑戦は語られていましたが、この一年も日本国内だけでなく、アジアや欧州で現地の人々とともに事業を展開し、常に世界的な視野で変化していく時代を見据えている田中社長の実感のこもった言葉であり、これからの厳しい時代を乗り越えていくための決意と覚悟、会社の方向性を示す、素晴らしい言葉だと思えます。

また今回のレポートを見て、特に評価したい点は、以前そして昨年度に指摘した2つの点について確実に改善され、より進化していることです。一点目は、以前のレポートではグループ全体のCO<sub>2</sub>排出量などがわかりにくかったのですが、今年度のレポートでは、リマテックの事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量をスコープ1, 2, 3毎に、国際的な算定基準である「GHGプロトコル」に従って算出し、それを専門機関である第三者認証を経て公表しています。このことによって、事業に関する全体的な現状把握が可能になっただけでなく、「脱炭素社会の実現」に向けて、今後リマテックグループおよびバリューチェーン全体のどこで、どの程度のCO<sub>2</sub>削減が可能かなど、詳細な戦略作りが可能になると思えます。まさにこのことは、田中

社長の「自社の事業活動を広義に捉えてサプライチェーン全体でマネジメントすることが必要」との認識の実践であり、解決が困難とされる気候変動問題にも真正面から立ち向かい、中小企業でもここまでできるという到達点を示すものだと、頼もしく思います。加えて、再エネ100%宣言や、スコープ1, 2で確実にCO<sub>2</sub>排出量を削減している点も評価したいと思います。

二点目として、前年度のレポートでは、SDGsに関する記載が各社の事業とSDGsの17目標を単に紐づけている感じで、「既存事業活動のSDGsへの当てはめ」という印象でしたが、今回のレポートでは、それを脱却し「SDGsを基盤とした経営を目指す」という点が明確になり、事業内容を説明するうえで効果的に使われていると思います。ただ、17項目は並列ではなく気候変動が重要かつ喫緊の課題であること、それらへの取組みが他の項目の解決にも深く関わっていることを再認識すると、脱炭素社会とSDGsへの取組みの意義がより深まると思えます。

一方、分社化も定着し、新たなバリューチェーンづくりや、グループ企業によっては得意分野を活かした新たな事業への取組みも見られますが、現状対応に追われ新たな展開が難しいグループ企業もあるようです。またグループにより脱炭素への取組みの困難さも異なると思います。さらに地域・現場からグローバルな流れを見る難しさもあると思います。業務内容や立場が異なるため致し方ない面もありますが、こうしたレポートや社員研修などの場面を通じて、田中社長の決意と方向性を共有し、一人一人が「見たことのない世界」への「挑戦メンバー」であることを忘れずに、またグループであることの強みも活かして、研鑽を積み、連携して、前に進んでほしいと願っています。



## 第三者意見を受けて

リマテック株式会社  
取締役業務部長  
南 成彰

始めに、2000年の環境報告書から数え、20冊目となる「CSRレポート2019」を発刊できたことは、藤村様をはじめ、ステークホルダーの皆様の温かいご支援、ご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。

さて、今回のレポートでは、過去のご指摘も踏まえ、サプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量まで算出、第三者機関による認証を取得し、信頼性をより高めた具体的な数値で「見たことのない世界」を作ることへの挑戦の前提となるリマテックグループのベースラインと温室効果ガスの削減目標を設定・公表致しました。また、「SDGsを基盤とした経営を目指す」という当

社グループの方向性をより明確にするためにも、17項目とグループ各社の業務とを紐付けした上で、個社の強み・特徴を活かしたそれぞれの方向性にも言及致しましたが、改めて「気候変動」をSDGsの項目の中でも喫緊の重要課題として位置付け、グループ全体で本格的に取り組んでまいります。

一方、藤村様のご助言にもあるとおり、グループ内の各社には固有の課題も山積しており、個社の強みを活かしつつグループとしての総合力を発揮して、トップの決意を具現化していくことは容易ではありませんが、グループ内外の協力・連携を強化し、挑戦メンバーである我々一人ひとりが日々努力を重ねてまいります。

今後もCSRレポートを通じ、ステークホルダーの皆様に当社グループの活動を幅広く知っていただくべく、分かりやすいレポート作成に努めてまいります。何卒、従前にも増して、ご支援、ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。



## リマテックホールディングス株式会社

本社 〒596-0015 大阪府岸和田市地藏浜町11-1  
tel.072-438-4146 fax.072-422-3809

<http://www.rematec.co.jp>



## リマテック株式会社

本社/大阪工場 〒596-0015 大阪府岸和田市地藏浜町11-1  
tel.072-438-6434(代表) fax.072-422-3617

堺SC工場 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4  
tel.072-280-0525 fax.072-280-0526

藤原事業所 〒511-0515 三重県いなべ市藤原町大字東禅寺1361-1  
太平洋セメント株式会社 藤原工場内  
tel.0594-46-4544 fax.0594-46-4544

南港事業所 〒559-0032 大阪府大阪市住之江区南港南7丁目  
関西電力株式会社 南港発電所内  
tel.06-6613-7761 fax.06-6613-7761

メタン発酵施設 〒596-0013 大阪府岸和田市臨海町16-1  
岸和田フィッシュミール株式会社構内  
tel.072-432-8004 fax.072-432-8004

<http://www.rematec.co.jp/rematec/>



## リマテック九州株式会社

本社/九州工場 〒875-0211 大分県臼杵市野津町大字都原906  
tel.0974-32-7721 fax.0974-32-7731

津久見事業所 〒879-2471 大分県津久見市合ノ元町2-1  
太平洋セメント株式会社 大分工場津久見プラント内  
tel.0972-82-9055 fax.0972-82-7025

<http://rematec-kyushu.com/>



## リマテック東北株式会社

本社 〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字亀井田2-3  
tel.0192-47-3526 fax.0192-47-3527

花巻ラボ 〒025-0312 岩手県花巻市二枚橋第5地割6番地3 B-7  
tel.0198-41-3033 fax.019-903-0306

<http://www.rematectohoku.com>



## リマテックR&D株式会社

本社 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4  
tel.072-280-0525 fax.072-280-0526

<http://www.rematec.co.jp/rd/>



## RTT株式会社

本社 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4  
tel.072-280-0672 fax.072-280-0673

大阪支社 〒596-0015 大阪府岸和田市地藏浜町11-1  
tel.072-433-7880 fax.072-433-7881

九州支社 〒875-0201 大分県臼杵市野津町大字野津市648-1  
tel.0974-32-7820 fax.0974-32-7821

<http://www.rtt-rematec.co.jp>



## 株式会社レックス

本社 〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場1-3-9  
プレミアム長堀ビル6階  
tel.06-6210-2327 fax.06-6210-2328

東京支社 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-8-12  
第一田中ビル2F  
tel.03-3548-8244 fax.03-3548-8245

<http://re-cs.co.jp>

## 編集後記

2000年に初めて環境報告書を発行してから早いもので20年が経ちました。20冊目となりました「CSR REPORT 2019」では、今までのレポートを踏襲しつつCSR活動について、すべてのステークホルダーの皆さまにご報告することを目的に情報を開示しています。私たちが社員による手作りのこのレポートは相変わらず、地味で「真面目」なレポート

となりました。読みづらい点もあろうかと存じますが、ご高覧のうえ当社グループのCSR活動をご理解いただければ幸いです。最後に、ご意見をいただいたステークホルダーの皆さま、本レポートにたずさわっていただいた作成委員、そして、当社のCSRレポートを最後まで目を通していただいた読者の皆さまにこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

- 報告対象期間/2018年4月1日~2019年3月31日(資料編)
- 報告対象組織/リマテックグループ
- 報告書発行日/2019年12月1日
- 情報開示体系/このレポートは、リマテックグループのCSR活動とその取り組みを報告しています。また、ホームページでは各社の事業紹介や日々の活動をリアルタイムに更新していますのでぜひ、ご覧ください。  
<http://www.rematec.co.jp>

- 参考ガイドライン/GRI「サステナビリティレポートガイドライン」、環境省「環境報告ガイドライン2018年版」、「地球温暖化対策地域推進計画策定ガイドライン」

本報告書に関するお問い合わせ先  
リマテック株式会社  
〒596-0015 大阪府岸和田市地藏浜町11-1  
tel.072-438-6434(代表) fax.072-422-3617 info@rematec.co.jp